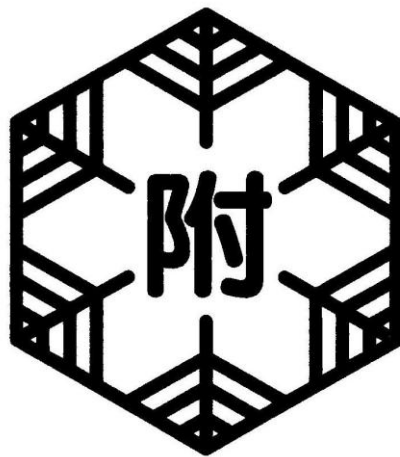


令和 7 年度

学校評価報告書



令和 8 年 3 月

富山大学教育学部附属特別支援学校

学校評価報告書 目次

1	教育理念、教育目標等・・・・・・・・・・・・・・・・	P 1
2	令和7年度 学校評価計画・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
	(参考) R 7 教育理念、学部目標とアドミッションポリシー・ディプロマポリシーとの位置関係	
3	令和7年度 学校運営計画・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
	(参考) R 7 公開教育研究会 案内	
4	重点課題等の取組について・・・・・・・・・・・・・・・・	P 8
5	学校評価アンケート	
	(1) 学校評価 保護者アンケートについて・・・・・・・・	P 12
	・保護者アンケート分析結果について・・・・・・・・	P 16
	(2) 学校評価 教員アンケートについて・・・・・・・・	P 18
	・教員アンケート分析結果について・・・・・・・・	P 30
6	令和7年度 学校行事等・・・・・・・・・・・・・・・・	P 33
	(参考) 進路だより N01、N02、進路年間計画	

資料

- ・第1回学校評議員会、第1回学校運営協議会記録・・・・・・・・ P 41
- ・第2回学校評議員会・第2回学校運営協議会記録・・・・・・・・ P 49

1 教育理念、教育目標等

(1) 教育理念

インクルーシブ教育システムの構築によって目指す共生社会に向け、児童生徒の自立と社会参加を広げ高め、社会的・職業的自立につながるように、キャリア発達を促す特別支援教育を推進する。

(2) 教育目標

健全な心身をもち、自分の力を発揮して、豊かに生きていくことのできる児童生徒を育成する。

一校訓一 仲良く 進んで 力いっぱい

(3) 教育方針

- ・教師と児童生徒及び児童生徒相互の好ましい人間関係を育て、明るく健全な児童生徒の育成を図る。
- ・児童生徒の障害の状態及び能力、特性の的確な把握に努め、一人一人に応じた指導を行う。
- ・児童生徒の経験や興味・関心を重んじ、自主的・自発的に取り組むことのできる学習内容を設定する。
- ・学校生活全体における教育環境を整え、日常生活の指導の充実を図る。

(4) 学校経営計画

ア 学校経営方針

- ・各教員の主体的な授業研究・指導実践を学校経営の中核に据え、社会のニーズに応じた先導的教育実践に取り組む。

イ 校務運営の充実

- ・小学部、中学部、高等部及び校務分掌部の連携を図る中で、教職員相互の理解と信頼に基づいた全校協力体制を確立する。
- ・校務分掌業務のスリム化・効率化を図り、校務運営において各自の責任ある行動を根幹として職務を遂行する。

ウ 大学の附属学校としての使命

- ・学生の実習や介護等体験、演習の場として、知的障害教育の実践について体験する機会を提供し、教師としての資質や実践的能力を育成する。
- ・教職大学院の研究協力校として実践的に学ぶ場を院生に提供し、将来のスクールリーダーとしての能力を育成する。
- ・知的障害教育の理論及び実践に関する研究を推進して、特別支援教育の発展に寄与する。

エ 教育活動の充実

- ・系統的・発展的な学習計画を作成し、教育理念・教育目標の達成に向けた指導の一貫性を図る。
- ・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた目標・内容を設定し、効果的な方法を工夫しながら指導を行う。
- ・物理的・人的な支援環境を整え、児童生徒の自立的・主体的な活動・参加を促す。
- ・教科・領域の目標の達成に向けて取り組むとともに、児童生徒のキャリア発達、家庭や地域生活を視野に入れた指導を行う。
- ・個別的教育支援計画や個別の指導計画を作成し、それを効果的に活用しながら家庭や地域の関係機関と連携して支援を進める。

オ 教職員の専門性の向上

- ・児童生徒の・保護者・教員のウェルビーイングを実現する学校を目指して、次の四つの視点から実践的な実践テーマを設定し、各自が主体的に実践に取り組むとともに、少人数の学部縦割りグループによる定期的な検討会等により相互に学び合うことで、専門職としての資質の向上を図る。

【四つの視点】

- ・確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践の育成
 - ・豊かな心の育成
 - ・主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成
 - ・学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上
- ・G I G Aスクール推進や情報活用能力の育成に関する研修等の現職教育を充実し、教職員の専門性の向上を図る。

2 令和7年度 学校評価計画

	計 画		取組の実際	
月	校 内	評議委員会等	校 内	
4	学校運営に関する共通理解 ・学部目標具体化研修会 学校運営計画の確認 ・重点課題等についての共通理解		学校運営に関する共通理解 ・学部目標具体化研修会 学校運営計画の確認 ・重点課題等についての共通理解	⇒昨年度の反省を生かし4月の職員会議で周知したが、共通理解するための方略が必要。 ⇒保護者には、今年度はHPでの定時にとどまった。4月の授業参観時に提示したい。
5	・次年度も実施する。 学部として目指す姿や各学級の実態やねらいを共有			
6				
7	○中間評価の実施 (保護者・教員アンケート)	◎第1回 学校評議員会 ・今年度の取組計画について	○中間評価の実施 (保護者・教員アンケート)	
8	◆学校評価委員会 ・集計結果の考察、改善案の検討			◎第1回 学校評議員会 ・今年度の取組計画について
9	・アンケート結果と改善案の公表(P T A 執行部会、富附ニュース、HP) ・取組改善の推進		・アンケート結果と改善案の公表(P T A 執行部会、富附ニュース、HP)	
10				
11				
12				
1	○年度末評価の実施 (保護者・教員アンケート)		○年度末評価の実施 (保護者・教員アンケート)	
2	◆学校評価委員会 ・集計結果の考察、改善案の検討 ・アンケート結果と改善案の公表 (P T A 執行部会、富附ニュース、HP) ◆学校評価委員会 ・次年度の重点課題検討	◎第2回 学校評議員会 ・今年度の取組と次年度の課題	・アンケート結果の公表予定 (P T A 執行部会、富附ニュース、HP) ・取組改善の推進	◎第2回 学校評議員会 ・今年度の取組と次年度の課題
3	学校運営計画(案)の確認 ・重点課題等についての共通理解 ・学部目標達成度の確認	□附属学校 自己点検評価委員会 ・今年度の取組と次年度の課題	・学校運営計画(案)の確認 ・重点課題等についての共通理解	□附属学校 自己点検評価委員会 ・今年度の取組と次年度の課題

R7 教育理念、教育目標、学部目標とアドミッションポリシー・ディプロマポリシーとの位置関係

＜教育理念＞ インクルーシブ教育システムの構築によって目指す共生社会に向け、児童生徒の自立と社会参加を広げ高め、社会的・職業的自立につながるよう、キャリア発達を促す特別支援教育を推進する。

＜教育目標＞ 健全な心身を持ち、自分の力を発揮して、豊かに生きていくことのできる児童生徒を育成する。

＜アドミッションポリシー＞
小学部入学にあたっては、必要なことを自分でやろうとする気持ちや、周りへの興味・関心をもとうとする幼児。

小学部	＜目指す児童像＞ 学校・家庭・地域で主体的に活動する子ども	＜学部目標＞ ・健康で元気に活動できる体をつくる ・身の回りのことを一人でできる ・友達と一緒に仲良く活動する ・楽しい活動に取り組む中で自分で考えたり選んだりして行動する
-----	----------------------------------	--

＜ディプロマポリシー＞
小学部卒業にあたっては、健康で明るく、前向きに生活し、集団の中で友達と協力する楽しさや共に学ぶ喜びを味わおうとする児童。

＜アドミッションポリシー＞
中学部入学にあたっては、健康で明るく、前向きに生活し、集団の中で友達と協力する楽しさや共に学ぶ喜びを味わおうとする児童。

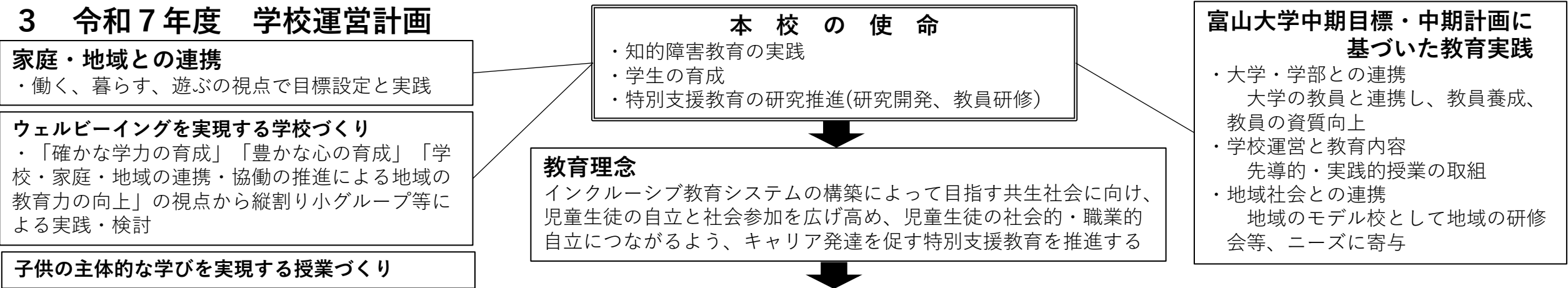
中学部	＜目指す生徒像＞ 学校・家庭・地域での人と関わりの中で主体的に活動する子ども	＜学部目標＞ ・健康な体と明るい心をつくる ・自分のことは自分でする ・友達と進んで協力する ・目標を立てて最後まで取り組む
-----	---	--

＜ディプロマポリシー＞
中学部卒業にあたっては、心身の健康を保つとともに、友達と積極的にかかわる中で、自分で選択しながら豊かな学校・家庭・地域生活を送ろうとする生徒。

＜アドミッションポリシー＞
高等部入学にあたっては、心身の健康を保つとともに、友達と積極的にかかわる中で、自分で選択しながら豊かな学校・家庭・地域生活を送ろうとする生徒。

高等部	＜目指す生徒像＞ 豊かな社会生活を送ることができる子ども	＜学部目標＞ ・健康な体と明るく強い心をつくる ・社会のルールとマナーを理解し、行動できる ・他者への思いやりの気持ちを持ち、望ましい人間関係をつくる ・自分で考えたり、決めたりして前向きに活動する
-----	---------------------------------	---

＜ディプロマポリシー＞
高等部卒業にあたっては、心身の健康を保つとともに、他者と積極的にかかわる中で、自分で決めながら豊かな社会生活を送ることができる生徒。





令和7年度 公開教育研究会

◆後援◆ 富山県教育委員会、富山県特別支援教育研究会
富山県特別支援教育知的障害教育研究協議会
日本教育公務員弘済会富山支部

研究テーマ(二年度)

ウェルビーイングを実現する学校づくり

～子どもたちのウェルビーイングを実現していくための授業づくり～

文部科学省が策定した「第4期教育振興基本計画」では、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを、教育を通じて向上させていくことの重要性が明記されています。特に、これからの社会を生きる児童生徒や教師にとって、ウェルビーイングは極めて重要なキーワードであり、子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが不可欠であるとされています。

昨年度は、教育振興基本計画で示された16の目標を参考に、3つのテーマを設定し、教職員が自ら研究したいテーマを選び、授業や事例検討等を通して研究実践に取り組みました。実現したい子どものウェルビーイングな姿を明確化して実践を進めることで、子どもたちのウェルビーイングにつながる成果を得ることができました。

研究2年次にあたる本年度は、2つの目的を設定しました。目的Ⅰは、「子どもを中心に置いたウェルビーイングな授業づくり」とし、教育振興基本計画の目標の中から、さらに4つの目標を設定し、それぞれの目標に向けて、子どものウェルビーイングを高めるための目標、学習内容の設定や支援の有り方の工夫を模索しながら授業づくりに取り組んでいます。目的Ⅱは、「教員のウェルビーイングの向上」について取り組んでいます。

●日時、場所、参加費

2025(令和7)年 12/19(金) 9:30-15:50

場 所 富山大学教育学部附属特別支援学校

◆資料代:500円

◆昼食:各自でご準備ください

※富山県特別支援教育知的障害教育研究協議会の会員は無料

●申込方法



- ・左の二次元コードから、必要事項を入力し、申込をしてください。
- ・申込が確認できましたら「参加申込確認メール」を送信させていただきます。
- ・参加人数に制限はありません。

申込受付期限 12月4日(木)

●交通案内

◆自家用車の場合

附属小・中学校側から入り、グラウンドに駐車してください。

◆富山駅より

【タクシー】

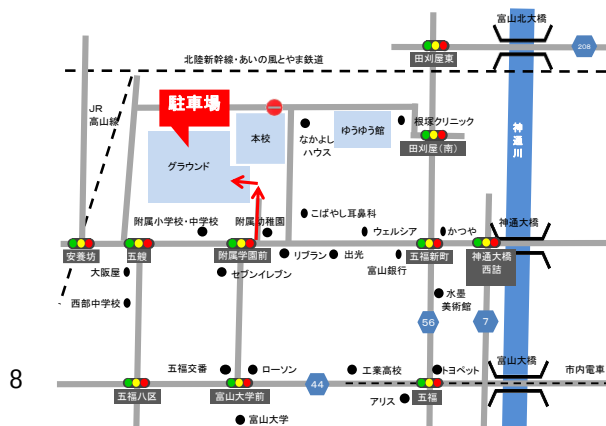
10分 約1000円

【バス】

富山駅7番乗り場

新桜谷行 附属学園前 下車

約10分 240円



＜受付＞
9:00～9:30

＜全体会＞
9:30～10:10

開会・校長挨拶・来賓あいさつ・研究概要説明

＜公開授業＞ 10:30～11:20 ※参観する授業を 申込時に選択し いただきます。	学 部	単 元 名 ・ 題 材 名	授 業 者
	小学部	自立活動「友達と一緒に活動しよう」 (目標2, 6) 豊かな心の育成、主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成	遠北 佳奈子
	中学部	総合的な学習の時間「世界の文化を発見しよう」 (目標9) 学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上	長内 拓磨
	高等部	情報「プレゼンテーションをしよう」 (目標1) 確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成	紺 恵

＜ポスター発表＞
11:30～12:10

※体育館にて、
すべてのポスター
を公開します。

目的Ⅰ：子どもを中心に置いたウェルビーイングな授業づくり

目標Ⅰ部会

確かな学力の育成、幅広い知識と教養・専門的能力・職業実践力の育成

a.国語(高等部)
单元名：聞いて書こう～連絡や注文を聞いてメモを取ろう～

b.生活単元学習(中学部)
单元名：修学旅行について調べて計画を立てよう

目標2, 6部会

豊かな心の育成、主体的に社会の形成に参画する態度の育成・規範意識の醸成

a.生活単元学習(小学部)
单元名：友達と一緒にゲームをしよう

b.自立活動(小学部)
单元名：「ふわふわことば」名人になろう

目標9部会

学校・家庭・地域の連携・協働の推進による地域の教育力の向上

a.特別活動(委員会活動)
单元名：全校児童生徒のために自分ができようことを考えよう

b.日常生活の指導(高等部)
单元名：余暇活動を深めよう

目的Ⅱ：教員のウェルビーイング向上

a.生成AIによる成績評価文作成を支援するプロンプト集の開発と活用

＜分科会＞
13:10～14:20

※申込時に選択して
いただいた授業の
分科会に参加して
いただきます。

公開授業を受け、学部ごとの授業研究「学びあいの場」を行います。「学びあいの場」では、「子どもの主体的な学びを目指す」、「子どもの視点で見る」、「聴き合う」の3つの視点を大切にしています。学びあいの場のプロセスにより、子供の姿の事実に基づき、目標に向かう子供の学び方を尊重した授業づくりを目指します。また、聴き合える授業研究を通して、授業者に寄り添い、各教員の「他者を認め」、「聴き合える雰囲気をつくり」、「共に学ぼうとする姿勢」をご覧いただければと思います。

＜講演＞
14:30～15:40

演題 「ウェルビーイングと学びの未来
— 理論から授業づくりへ—」

高知大学教育学部
西村 健一 教授



＜閉会＞
15:40～15:50

4 令和7年度 重点課題等の取組について

1 重点課題についての取組					資料等
			主な取組（予定）	・取組の実際 ▲課題 ⇒次年度の取組案	
A	教科の視点に基づいた計画や授業実践	①	系統的で一人一人の実態に合った目標の立案と授業実践	・全学部で年間指導計画を見直し、国語・数学は学習内容を段階化するとともに、中高では小学校教科書の学年段階を明示して系統性と領域のバランスを整えた。授業打合せ会では一人一人に合った目標設定と活動内容の検討方法を共通理解し、その方針をもとに全学部で実態に応じた授業実践を行った。	
		②	教科等のねらいを明確にした学習計画の授業実践（生活単元学習等）	・生活単元学習では、各単元がどの教科に基づく学習であるかを明確にし、その教科との関連を示した学習内容表を作成した。学習内容表に沿って授業を実施し、教科等のねらいを踏まえた生活単元学習の充実を図った。	
		③	「学びの主体者」である生徒自身が主体的に取り組む総合的な学習の時間及び総合的な探求の実践	・中学部の総合的な学習の時間では、生徒が二つのテーマから選択して学習を進め、大学の授業参加や地域のスーパー・外部施設の活用など、外部連携を取り入れた実践を行った。これらの活動を通して、生徒が「学びの主体者」として主体的に探究に取り組むことをめざした。	
B	働き方改革・業務改善	①	校務のDCAPサイクル化、業務スケジュール等の見直し	・各学部、分掌で行事等を実施後にアンケート、改善策を盛り込んだ次年度案を作成するところまでするように呼びかけた。 ・各学部、分掌で削減できそうな業務がないか洗い出してもらった。削減できないものでも縮小していく方向で検討してもらっている。	
		②	授業準備のための時間確保（会議等の終了時刻の設定、内容・方法等の見直し）	・会議のレジュメに終了時刻を明記した。 ・協議事項は詳しく説明し、連絡事項は必要ことだけ簡略に伝えるようにした。 ▲設定した時刻どおりに終了できない会議が多くある。 ⇒事前に資料を配布し何について協議したいのかを伝えておくなど、	
		③	教師間の情報交換・情報共有の充実（目標の検討、共有の機会を設定）	・4月、6月、10月、12月、1月、3月に「授業打合せの日」を設定、実施した。児童生徒の実態把握や、目標、支援方法の検討ができた。 ▲公開授業の検討や事後研究会、研究の部会等もあり、それぞれの役割が曖昧になっている。 ⇒それぞれの会の目的を明確にして実施する。	

2 各学部及び分掌での取組					
実践項目			主な取組（予定）	・取組の実際 ▲課題 ⇒次年度の取組案	
1	各学部	小学部	プール学習での安全確保	①大人の人員を確保した状態で実施する。 ②更衣室として清掃基礎実習室とリネン室を使用する。	①介護等体験生、実習生も加わって大人の人員をなるべく多くした状態で実施することができた。 ②活動前は教室、活動後は清掃基礎実習室（男）とリネン室（女）を使用して着替えることができた。
			生活単元学習の系統性	1～6年まで系統的になるよう年間指導計画の単元名や活動内容を見直し、実践する。	・R6年度研究の生単系統性部会で見直した学習内容表や年間指導計画を基に各クラスで実施することができた。
			音楽、体育、遊びの指導の3年計画の実践	児童の実態も含め、年間指導計画に記載されている活動内容が適切かどうか吟味し、実践する。	・3年計画の2年目となる。年間指導計画に記載された内容を中心に実施することができた。 ⇒3年間で学習することが記載されているので、次年度も継続して取り組んでいく。
		中学部	実態に応じた自立活動の方法	・重点目標検討の際にグループ検討を行い、個別の重点目標に配慮したグループ編成を行う。	・グループ検討を行ったことで、目標に応じた関わりや支援がしやすくなり、活動の充実につながった。
			総合的な学習の時間の充実	・「学校の魅力紹介」「地域の魅力紹介」など、自由度の高い学習テーマを複数用意し、2つのグループに分かれて取り組む。 ・4月に各テーマの具体例を紹介し、生徒が興味のある内容を選ぶようにする。	・生徒が興味に応じて学習内容を選ぶようにしたことで、「世界の文化について知ろう」「健康で安全な生活を送ろう」の2つのグループで主体的な活動が見られた。 ・富山大学の留学生や大学生との交流も実現し、多様な文化や価値観に触れる貴重な機会となった。
			余暇の幅を広げるためのマイチャレの在り方	・ねらいや個々の目標を共有する。	・ねらいや個々の目標を共有したことで、次の目標設定や支援の方向性がより適切に調整できるようになった。
		高等部	各教科でのDCの実践	・年間指導計画を年度当初に確認	▲実施できなかった。 ⇒次年度、年度当初に確認する。
			生活単元学習	・学習内容表の活用 ・単元の内容や実施時期を検討（修学旅行のある年度とない年度）	▲学習内容表を活用できなかった。 ⇒年度初めに、印刷・配布する。 ・社会や理科等合わせた指導の教科の学習内容を確認しながら、単元の内容と実施時期を学部で検討することができた。⇒次年度より実施する。
			総合的な探求の充実	学習発表会の事前学習の実施をはやめ、主体的に課題を見つけ解決する力を育む。	・事前学習を夏休み前からスタートさせた。生徒が立案し準備する時間は少し増えた。 ▲9月に教員の入れ替わりや教育実習業務の重なりがあり、教員の心身負担が大きく、生徒が主体的に課題を見つけ解決することができた学習を提供できたかは評価が難しい。 ⇒次年度より、動画作成を行わない。
			校外学習の在り方	・生活単元学習の一部として、屋外での体験的な学習活動を行う。	・生活単元学習の学習内容と絡めた校外学習を計画、実施することができた。 ▲余暇の個別の目標を意識しすぎるあまり、余暇の要素が強い校外学習の計画案を立てていることがあった。 ⇒生活単元学習と余暇活動のバランスを考えて計画を立てるよう、生単の学習内容を確認する際に一緒に確認する。
2	教務部	教務	TOFUプランのスムーズな実施	学習連絡簿の作成を円滑に進めるため、成績の起案スケジュールを前倒しするとともに、教務連絡ファイルを作成して各学部と執務室に配置し、起案の日程や手順を確認しやすくする。	・成績の日程については、懇談会前に学習連絡簿を作成できるようになった。 ▲教務で予定したスケジュールどおりに進めるまでには至っていない。 ⇒次年度は、教員が無理なく成績作成を進められるよう、円滑な運用が可能な日程で計画を立てることとする。
			個別の指導計画の目標立案	次年度の担任が円滑に計画を立てられるよう、前年の担任が生徒の実態を踏まえた次年度の個別の指導計画（重点目標）を年度末に立案・起案する。	・次年度の担任が円滑に計画を立てられるよう、前年の担任が生徒の実態を踏まえて次年度の個別の指導計画（重点目標）を年度末に起案した。 ▲起案の戻りが年度をまたいだり新担任による大幅な修正が必要となったりする場合があった。 ⇒次年度は、年度末までに前年担任が計画の立案を終え、新年度に引き継いだ新担任が必要な修正を行ったうえで起案する方法に改めることとした。

		教育実習	大幅な時間削減	事前指導及び実習運営の方法の工夫	・放課後の打ち合わせ（学級、実地授業、公開授業）の時間の長さを、必要に応じて調整 ・事前指導から児童生徒の実態把握、指導案の作成を開始
			指導案の作成	①「単元について」8月作成 ②指導教諭と学部主事で連携を図り指導案の指導	・全ての授業者が締め切りを守り、起案及び修正を行うことができた。
			実習録の記述	記述の内容や分量の教職員及び実習生への共通理解	・記述内容や分量などについて学生への事前指導 ・コメントの記載についての教員への事前説明 ・上記について、口頭だけでなく紙面でも示し共通理解
3	学校生活支援部	保健給食美化	配信による情報共有の工夫	内容量の調節、読みやすい様式、出欠確認の方法	・「〇月号」から「No. 〇」方式に変えたことで、無理なく更新できるようになった。 ・従来のPDF方式に併用し、Googleサイトでの配信を開始した。 ・出欠確認をシステム化したことで、全職員で情報共有できるようになった。 ▲連絡帳等を通じて学校へ連絡する場合、入力の必要がない。 ⇒引き続き、欠席遅刻早退など、健康観察表に記入してもらい、把握していく必要がある。
			校内環境整備	洗面所の排水溝 清掃物品	夏休みに、用務員に依頼して清掃してもらった。 年度初めに、清掃物品の確認をした。 ▲年度初めは多忙。 ⇒年度末に、確認をしておいた方がよいと思われる。
			校内の連絡体制	連絡経路の確認、年度初めの職員会議で周知した	・学部主事、管理職への連絡体制が取れていた。引き続き、年度初めに連絡体制について伝える。
		生徒指導	より実践的な避難訓練の在り方	冬季の避難訓練の在り方について検討し、実施する	・冬季の避難のポイント、注意点について学生部、管理職で検討して実施計画を立て、2月に冬季の避難訓練を実施した。
			児童生徒会活動の充実	児童生徒集会において、学習の成果発表の場を設ける	・長期休業前集会のエンジョイタイムを学習の成果発表の場とし、希望者が学習の成果発表を行った。
		4	情報部	ホームページの掲載内容の適正化	個人情報への留意
classroomの活用	classroomへの投稿の仕方の統一			・年度初めに、classroomへの投稿の仕方（「授業」にトピックを指定して投稿する）を周知した。	
5	地域生活支援部	進路指導	進路学習の在り方	「進路に関する資料」の巻末資料の簡素化	・巻末資料を福祉事業所の県、富山市のHPにつながる二次元コードとした。 ・GoogleClassroom「進路の部屋」にも富山市の同様の資料に「仕事内容」を追加した。 ⇒次年度以降も情報の更新、拡充を図る。
			就業体験の在り方	中学部が春季就業体験に参加しない代わりに、春季就業体験の見学を実施する。	▲計画の確認や進行管理が十分でなく、実施漏れが生じた。 ⇒次年度は、中学部担当者とも連携を取り、実施する。
		教育相談	スクールカウンセラーとの連携と共通理解	・保護者へ案内する。 ・スクールカウンセラーとの連携の内容を、学部内で共通理解する。	・保護者支援の一助となった。 ・必要に応じて助言内容を学部内で共有し、支援の参考とすることができた。
			附属学校園のインクルーシブ教育の推進	・定期的に訪問する。 ・支援グッズや書籍の情報提供、貸出を行い、OT研修会への参加を募る。	・継続的な支援や早期対応につながった。 ・支援グッズや書籍について情報提供や貸出を行った。本校で実施したOT研修会に幼稚園からも参加があり、共に理解を深めることができた。

6	研究・ 研修部	小グループによる研究の推進	・部会の運営	・研究・研修部を中心として概ね円滑に実施することができた。また、教職員が希望する部会に分かれて研究を進める体制を整えることができた。 ▲部会のメンバー構成について、同一学部や新任教員が偏る傾向が見られた。⇒部会の編成方法を見直し、より均衡のとれた構成となるよう研究・研修部で調整を行う。 ▲新任教員に対し、研究の概要を十分に説明しないまま部会の希望を取っていた。⇒部会の希望調査に先立ち、研究の目的・内容等について説明する時間を設け、理解を深めた上で希望を確認する体制へ改善する。
		公開教育研究までの見通し	・年間計画について早めの周知	▲年間計画や年度全体の見通しを十分に示すことができなかった。新年度になってから検討すべき事項が多く、計画が後追いとなってしまった。 ⇒前年度のうちに次年度の研究の方向性や内容について具体的に計画を立案し、新年度開始時に年間計画を提示できるよう準備を整える。

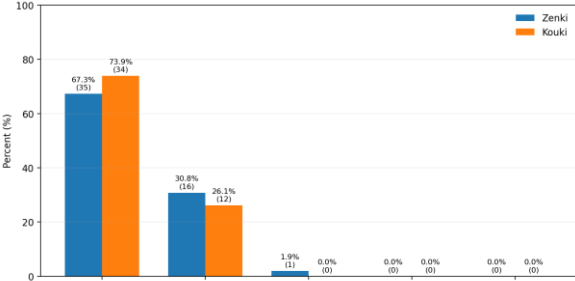
5

(1) 学校評価アンケート集計結果(保護者)

1

Q2

学校は、教育活動の様子を学校行事や学部通信、進路だより、ホームページ、クロームブック等で伝えている。

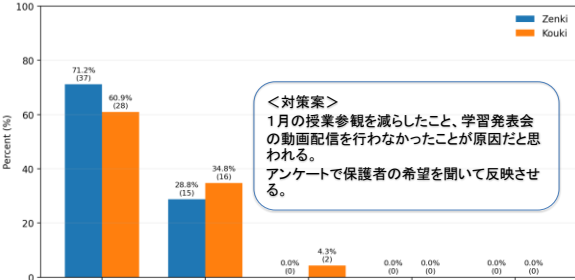


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 98.1% → 100.0% (+1.9pt) で上昇。
【構成の変化】 最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (+6.6pt)。

3

Q4

学校は、保護者が教育活動を参観する機会をよく設けている。(行事のビデオ視聴の機会も含む)

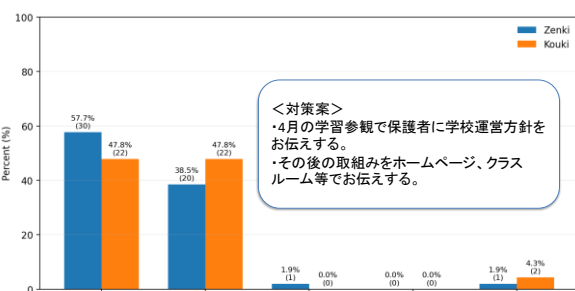


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 100.0% → 95.7% (-4.3pt) で低下。
【構成の変化】 最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (-10.3pt)。

5

Q1

学校は、学校運営方針をホームページやクロームブック等で分かりやすく伝えている。

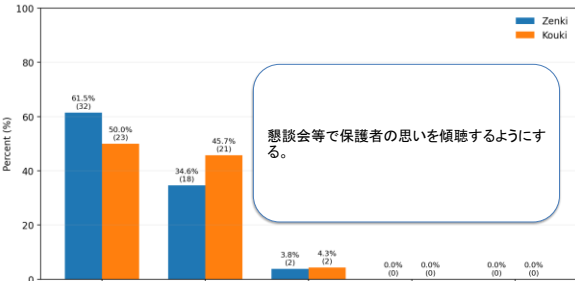


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 96.2% → 95.6% (-0.6pt) で低下。
【構成の変化】 最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (-9.9pt)。

2

Q3

学校は、保護者の思いや意見を聞くように努めている。(懇談会、アンケート等)

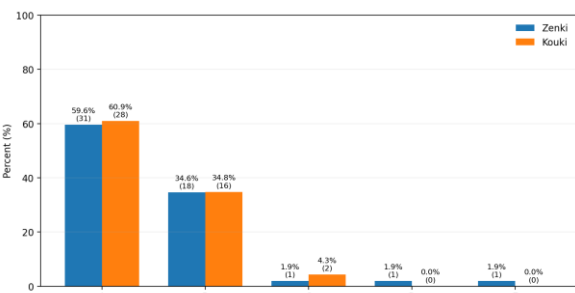


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 96.1% → 95.7% (-0.4pt) でほぼ横ばい。
【構成の変化】 最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (-11.5pt)。

4

Q5

教員は、児童生徒についての相談に適切に応じている。

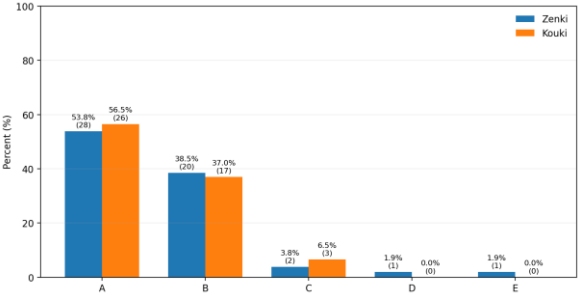


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 94.2% → 95.7% (+1.5pt) で上昇。
【構成の変化】 最も動いた選択肢は「C: あまりそう思わない」 (+2.4pt)。

6

Q6

教員は、児童生徒一人一人に合わせた適切な指導をしている。

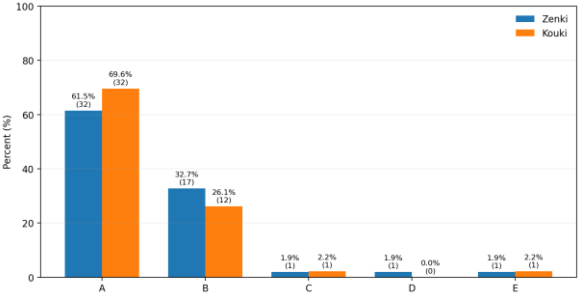


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.3% → 93.5% (+1.2pt) で上昇。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (+2.7pt)。

7

Q7

教員は、児童生徒に対して温かい関わりや励ましを行っている。

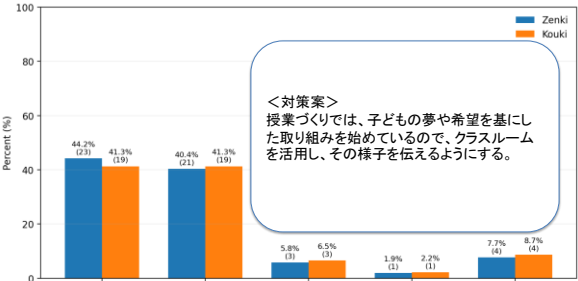


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 94.2% → 95.7% (+1.5pt) で上昇。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (+8.1pt)。

8

Q8

教員は、児童生徒が夢や希望をもつための指導を行っている。



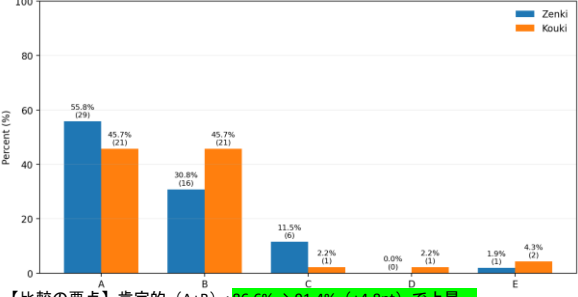
＜対策案＞
授業づくりでは、子どもの夢や希望を基にした取り組みを始めているので、クラスルームを活用し、その様子を伝えるようにする。

【比較の要点】肯定的 (A+B) : 84.6% → 82.6% (-2.0pt) で低下。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (-2.9pt)。

9

Q9

教員は、児童生徒が自分や相手を大切にするための指導（人との関わり方、性に関する指導、悩みやストレスの解消の仕方）を十分に行っている。

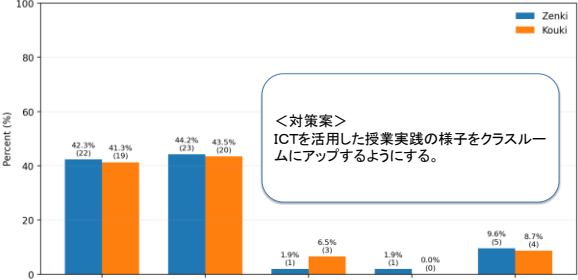


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 86.6% → 91.4% (+4.8pt) で上昇。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「B: やや思う」 (+14.9pt)。

10

Q10

教員は、児童生徒一人一人に応じて、ICT環境等を有効に活用した指導を行っている。



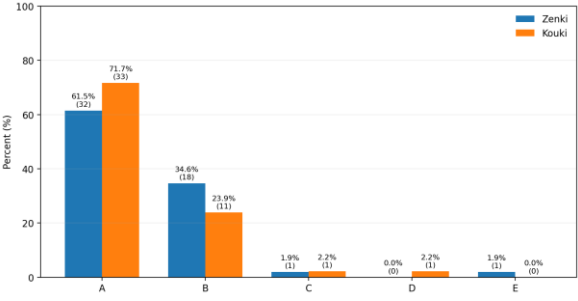
＜対策案＞
ICTを活用した授業実践の様子をクラスルームにアップするようにする。

【比較の要点】肯定的 (A+B) : 86.5% → 84.8% (-1.7pt) で低下。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「C: あまりそう思わない」 (+4.6pt)。

11

Q11

学校は、児童生徒が積極的に参加できるように行事の工夫を行っている

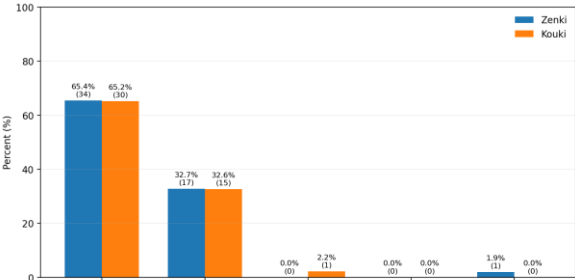


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.1% → 95.6% (-0.5pt) でほぼ横ばい。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「B: やや思う」 (-10.7pt)。

12

Q12

学校は、児童生徒・保護者の願いやニーズを取り入れて個別の教育支援計画・個別の指導計画の支援内容・支援目標を設定している。

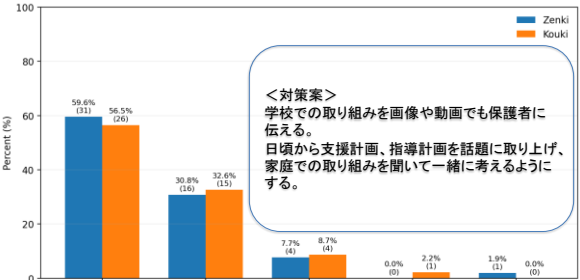


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 98.1% → 97.8% (-0.3pt) でほぼ横ばい。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「C: あまりそう思わない」 (+2.2pt)。

13

Q13

学校は、個別の教育支援計画・個別の指導計画の支援内容について、支援目標の達成に向けて保護者・家庭と連携している。

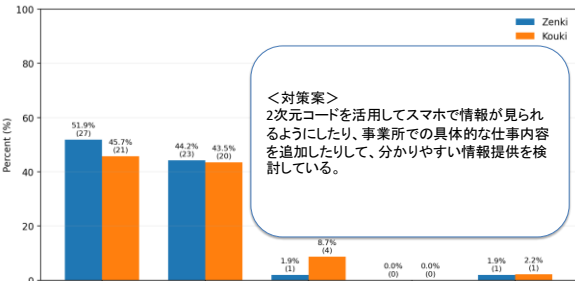


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 90.4% → 89.1% (-1.3pt) で低下。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「A: とても思う」 (-3.1pt)。

14

Q14

学校は、保護者に進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。

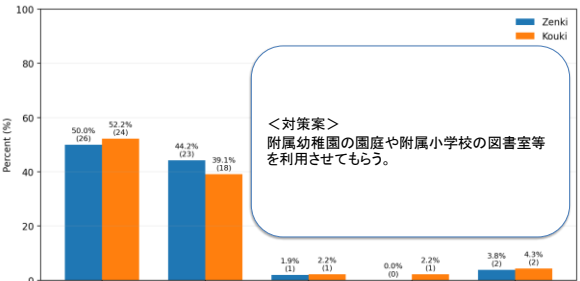


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.1% → 99.2% (-6.9pt) で低下。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「C: あまりそう思わない」 (+6.8pt)。

15

Q15

学校は、学習しやすい環境、活動しやすい環境整備（施設設備、視聴覚機器、図書、教材、遊具など）に努めている。

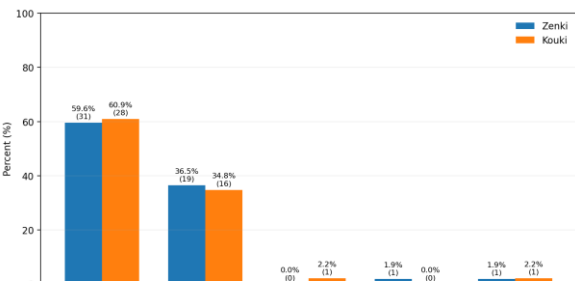


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 94.2% → 91.3% (-2.9pt) で低下。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「B: ややそう思う」 (-3.1pt)。

16

Q16

学校は、安全や事故防止に配慮している。

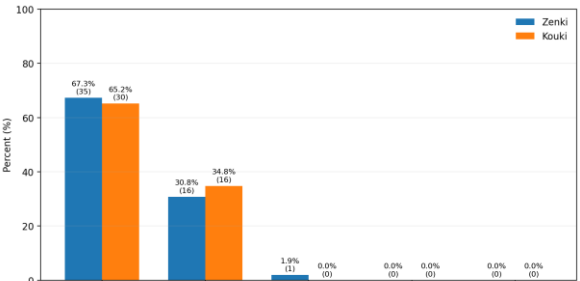


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.1% → 95.7% (-0.4pt) でほぼ横ばい。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「C: あまりそう思わない」 (+2.2pt)。

17

Q17

学校は、教室内外の掲示物の環境や清掃、衛生面などについて配慮している。

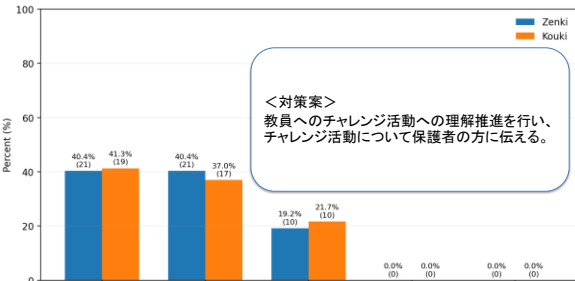


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 98.1% → 100.0% (+1.9pt) で上昇。
【構成の変化】最も動いた選択肢は「B: ややそう思う」 (+4.0pt)。

18

Q18

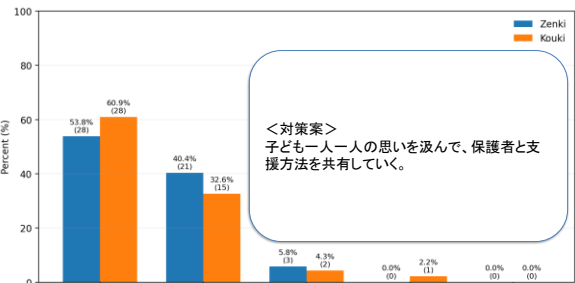
お子さんは、家庭でチャレンジ活動など家で取り組む活動（役割）をしている。



19

Q19

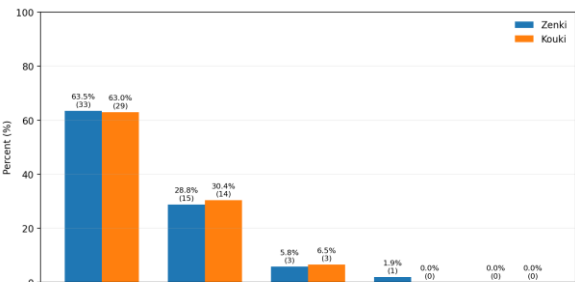
お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。



20

Q20

学校の教育に満足している。



21

前期	後期
いつもありがとうございます	いつもありがとうございます。
いつもありがとうございます。先生方には大変感謝しております。	中学部の指定のリュックは、指定じゃないものにしても良いのではないかと思います
安心して子供を学校に送り出せている事にいつも感謝しています。ありがとうございます。先を見据えて今から必要な力を育てる為に意識改革していただいています。親も同じように意識を変えて、足並みを揃えなくてはと思っています。	日頃よりご指導いただき、心より感謝申し上げます。子どもは毎日登校するのを楽しみにしており、家庭でも学校での出来事を嬉しそうに話してくれます。今年度は何事にも意欲的に取り組む姿が多く見られ、できることも沢山増えました。先生方が子どもの気持ちを尊重しながらご指導くださるおかげで、本人に自信ができてきたようです。学校行事や家庭での何気ない姿からも、大きな成長を感じております。今後とも、どうぞよろしく願いたします。
いつもありがとうございます。	
今年度は授業でクロムブックが活用されていないと感じます	令和8年度の附属特別支援学校の入学式と、富山市立小学校の入学式が重なるようです。他市町村も含め、兄弟姉妹の入学式が重ならなければよいと思っています。日の回り合わせもあるかと思いますが、調整は難しいでしょうか。特に儀式は、保護者、子どもにとって重要な行事でもありますので、気になりました。

22

R7年度 学校評価 保護者アンケート 分析結果

A（とてもあてはまる）とB（ややあてはまる）を合わせれば、90%を超えているものが多いが、C（あまりあてはまらない）やD（全くあてはまらない）という回答もあるので、児童生徒、保護者のニーズに応じた対応ができるよう点検していきたい。

① A（とてもあてはまる）の項目が50%を下回るものは以下のとおりである。

		前期	後期
1	学校は、学校運営方針をホームページやクロームブック等で分かりやすく伝えている。		▲
8	教員は、児童生徒が夢や希望をもつための指導をおこなっている。	▲	▲
9	教員は、児童生徒が自分や相手を大切にするための指導（人との関わり方、性に関する指導、悩みやストレスの解消の仕方）を十分に行っている。		▲
10	教員は、児童生徒一人一人に応じて、ICT環境等を有効に活用した指導を行っている。	▲	▲
14	学校は、保護者に進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。		▲
18	お子さんは、家庭でチャレンジ活動など家で取り組む活動（役割）をしている。	▲	▲

② C（あまりそう思わない）とD（全くそう思わない）の項目を合わせて7%を超えるものは以下のとおりである。

		前期	後期
8	教員は、児童生徒が夢や希望をもつための指導を行っている。	▲	▲
9	教員は、児童生徒が自分や相手を大切にするための指導（人との関わり方、性に関する指導、悩みやストレスの解消の仕方）を十分に行っている。	▲	
13	学校は、個別の教育支援計画・個別の指導計画の支援内容について、支援目標の達成に向けて保護者・家庭と連携している。	▲	▲
14	学校は、保護者に進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。		▲
18	お子さんは、家庭でチャレンジ活動など家で取り組む活動（役割）をしている。	▲	▲
20	学校の教育に満足している。	▲	

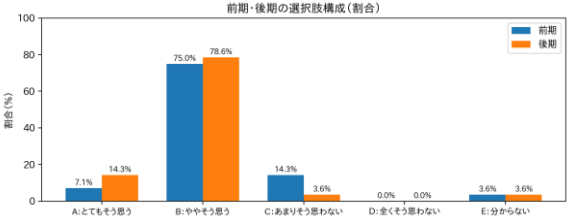
③ 次年度に向けて

1	4月の学習参観で保護者に学校運営方針をお伝えする。その後の取組みをホームページ、クラスルーム等でお伝えする。
8	授業づくりでは、子どもの夢や希望を基にする取組みを始めている。クラスルームを活用し、研究の取組みを伝えていく。
9	学校での取組みを具体的に伝えていく。
13	学校での取組みを、画像や動画でも保護者に伝える。
14	卒業までの進路指導の見通し、各学部での取組み、実際の様子を発信する。
18	まずは教員へのチャレンジ活動の理解を深める取組みを行う。

19	具体的な取り組みの発信をしたり、トラブルが起きたときに丁寧な説明を行ったりする。	
設問番号	設問(要約)	A+B(%)
2	学校は、教育活動の様子を学校行事や学部通信、進路だより、ホームページ、クロームブック等で伝えている。	100
17	学校は、教室内外の掲示物の環境や清掃、衛生面などについて配慮している。	100
12	学校は、児童生徒・保護者の願いやニーズを取り入れて個別の教育支援計画・個別の指導計画の支援内容・支援目標を設定している。	97.8
1	学校は、学校運営方針をホームページやクロームブック等で分かりやすく伝えている。	95.7
3	学校は、保護者の思いや意見を聞くように努めている。(懇談会、アンケート等)	95.7
4	学校は、保護者が教育活動を参観する機会をよく設けている。(行事のビデオ視聴の機会も含む)	95.7
5	教員は、児童生徒についての相談に適切に応じている。	95.7
7	教員は、児童生徒に対して温かい関わりや励ましを行っている。	95.7
11	学校は、児童生徒が積極的に参加できるように行事の工夫を行っている。	95.7
16	学校は、安全や事故防止に配慮している。	95.7
6	教員は、児童生徒一人一人に合わせた適切な指導をしている。	93.5
19	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	93.5
20	学校の教育に満足している。	93.5
9	教員は、児童生徒が自分や相手を大切にするための指導(人との関わり方、性に関する指導、悩みやストレスの解消の仕方)を十分に行っている。	91.3
15	学校は、学習しやすい環境、活動しやすい環境整備(施設設備、視聴覚機器、図書、教材、遊具など)に努めている。	91.3
13	学校は、個別の教育支援計画・個別の指導計画の支援内容について、支援目標の達成に向けて保護者・家庭と連携している。	89.1
14	学校は、保護者に進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。	89.1
10	教員は、児童生徒一人一人に応じて、ICT 環境等を有効に活用した指導を行っている。	84.8
8	教員は、児童生徒が夢や希望をもつための指導を行っている。	82.6
18	お子さんは、家庭でチャレンジ活動など家で取り組む活動(役割)をしている。	78.3

5
(2)学校評価アンケート集計結果(教職員)

1-①
学校教育目標及び教育方針が、教職員・保護者に理解されている。

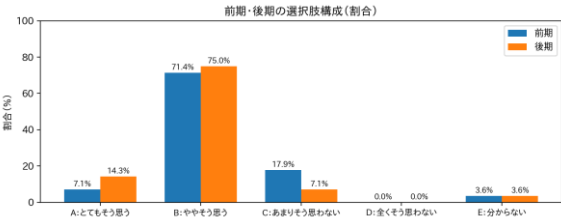


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 82.1% → 92.9% (+10.7pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : C : あまりそう思わない (-10.7pt)

1

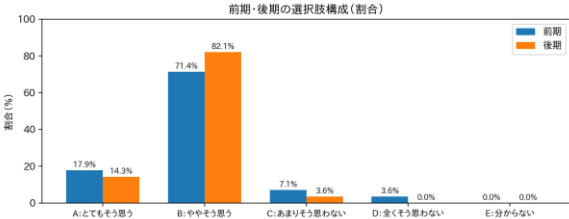
2

1-②
学校教育目標を具現化した目ざす子ども像・各学部・各学部の目標が、教職員・保護者に理解されている。



【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 78.6% → 89.3% (+10.7pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : C : あまりそう思わない (-10.7pt)

1-③
教育活動全般にわたって評価を行い、次の計画に生かしている。



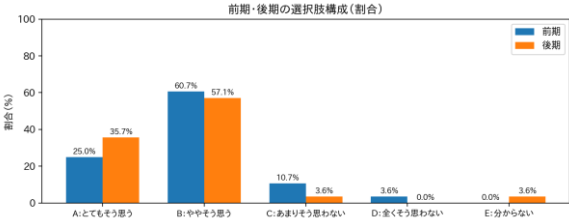
【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 89.3% → 96.4% (+7.1pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : B : ややそう思う (+10.7pt)

3

4

前期	後期
	学校教育目標は、このままでもよいと思いますが、時代の変化に応じて変更の必要がないかどうかを検討する機会があってもよいと思います。

2-④
校長・副校長は自らの教育理念や学校運営について考えをもち、リーダーシップを発揮している。



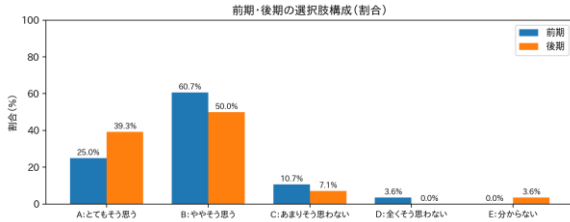
【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 85.7% → 92.9% (+7.1pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : A : とても思う (+10.7pt)

5

6

2-②

教頭・学部主事は、校長・副校長の教育理念や学校運営の方針の実現に向けて、教職員の指導を行っている。



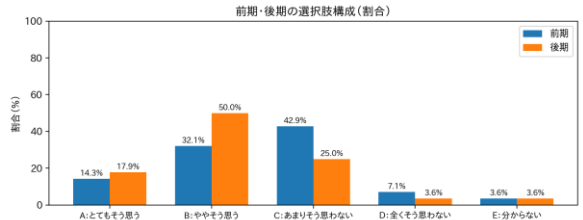
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7%→89.3% (+3.6pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢: A: とてもそう思う (+14.3pt)

7

2-③

教職員一人一人の能力や適性を考慮した校務の分担がされている。



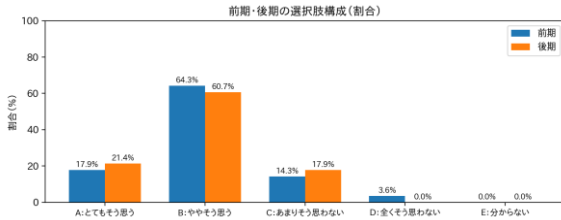
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 46.4%→67.9% (+21.4pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢: B: ややそう思う (+17.9pt)

8

2-④

分掌相互の連絡・調整が円滑に行われ、有機的に機能している。



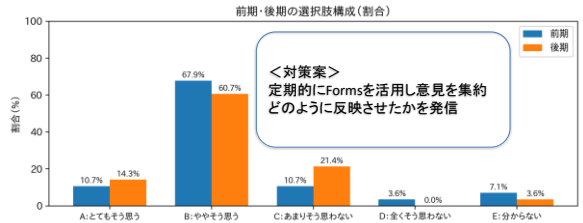
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 82.1%→82.1% (-0.0pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢: B: ややそう思う (-3.6pt)

9

2-⑤

教職員の意見が教育活動や学校運営に反映され、意欲的に取り組める環境となっている。

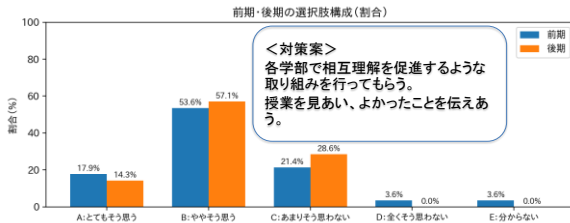


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 78.6%→75.0% (-3.6pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢: C: あまりそう思わない (+10.7pt)

10

2-⑥ 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

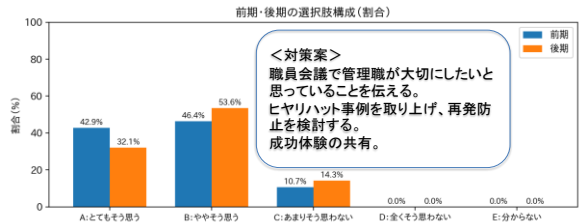


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 71.4%→71.4% (-0.0pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢: C: あまりそう思わない (+7.1pt)

11

2-⑦ 教職員一人一人が、服務に対する自覚をもち続けている。



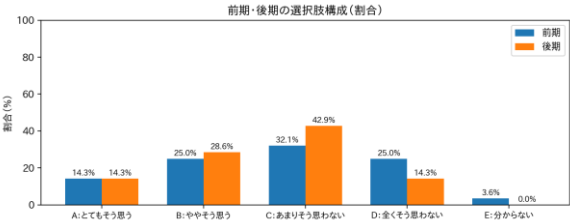
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 89.3%→85.7% (-3.6pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢: A: とてもそう思う (-10.7pt)

12

2-⑧

働き方改革への取組が適切に行われている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 39.3% → 42.9% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : D : 全くそう思わない (-10.7pt)

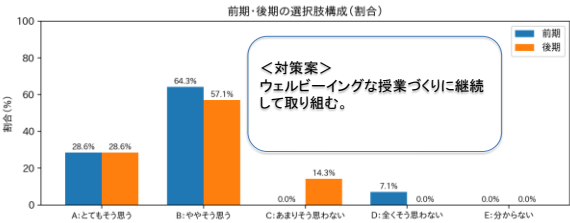
13

前期	後期
仕方のないことではあるが、一部の教員に負担が偏っている部分がある。 担任の仕事、分掌の仕事と仕事量が多く、資料作成の期限に追われている。学部間や分掌間で仕事の分担ができると良いです 管理職からの理解が得られない、管理職のマネジメント力不足・学部内の業務の偏り 残業をしないわけではない、早く帰るよう急がされても不可能。業務全体の見直し、効率化が最優先。 一人当たりの負担が大きすぎる、学部付きを増やし、学部業務も校務分掌も手分けする。 働き方改革をさらに進める必要があると思う。 自分を棚に上げて相手を非難したり、仕事や責任を押し付け合ったりする様子が見受けられる。権利ばかり主張するのではなく、建設的な話し合いができるとうい。	書籍と成績処理の時期が重なると負担が大きいのと思いました。成績処理の時期は決まっているので、その時期を避けて書籍作成の計画を立てていただくと負担感が減らせると思います。 事実を捻じ曲げて吹聴したり、責任転嫁したりしている様子があり、不快に感じるが多い。メタ認知能力を鍛えようとするれば何か変わるかもしれない。 管理職の力量でほぼ成り立っている状況だと感じる。 業務を精選・削減してきたが、現在のメンバーで遂行できないのであれば、まだまだ削減しなければならないのかもしれない。

14

3-①

附属校としての使命に基づき、研究に取り組んでいる。

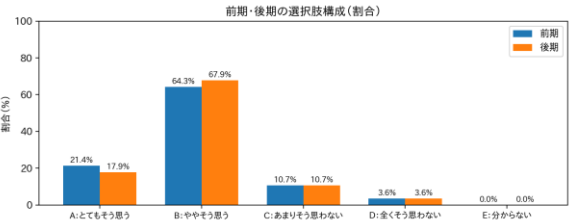


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 85.7% (-7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : C : あまりそう思わない (+14.3pt)

15

3-②

教育目標の具現化に向けた校内研究・研修を進めている。

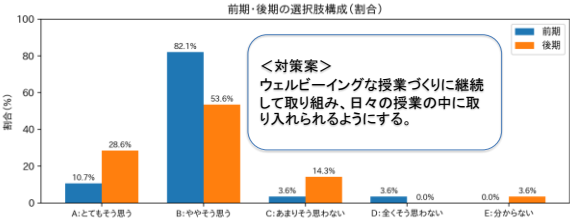


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 85.7% (+0.0pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とてもそう思う (-3.6pt)

16

3-③

校内研修を計画的に推進し、実践の場で生かしている。

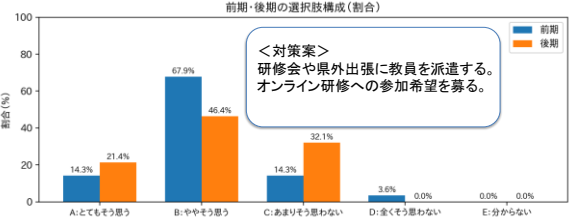


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 82.1% (-10.7pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : ややそう思う (-28.6pt)

17

3-④

校内・校外の研修会に進んで参加するなど、教員としての資質や専門性の向上に努めている。

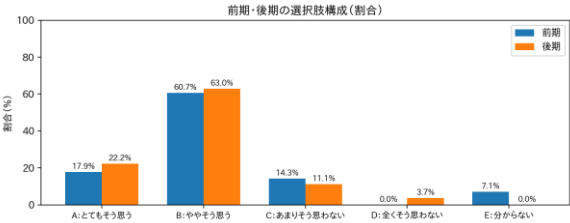


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 82.1% → 67.9% (-14.3pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : ややそう思う (-21.4pt)

18

3-⑥

地域のモデル校としての実践をし、発信や研修の受け入れをしている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 78.6% → 85.2% (+6.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : E : 分からない (-7.1pt)

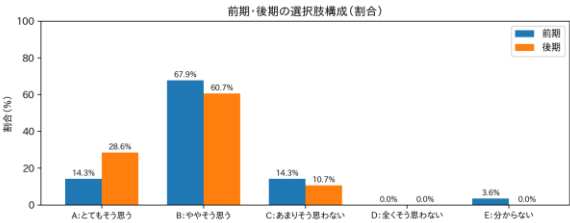
19

前期	後期
大学の研究がどれだけ反映されているのかわからない 互見授業に参加できて良かった。学び合いの事後研究も良かった。 研究に割く時間がない。個々人の裁量に任ぜられている。 部会の日を変更せずに行ってほしい。勤務時間内に終わるように計画してほしい。	勉強不足なだけかもしれませんが、研究課題であるウェルビーイングについて、あまり理解できていません。ウェルビーイングな授業、というものの分からないまま1年を過ごしました。 研究授業者が同じ人ばかりにならないように、研修の機会が平等になるといいと思います。

20

4-①

年間指導計画を整備し、小・中・高の一貫・継続した指導に努めている。

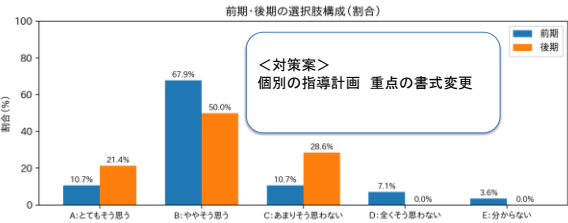


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 82.1% → 89.3% (+7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+14.3pt)

21

4-②

個別の指導計画・個別の教育支援計画を適切に作成し、活用している。

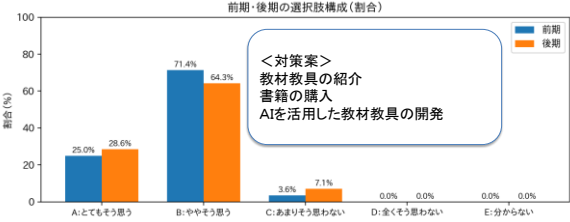


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 78.6% → 71.4% (-7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : やや思う (-17.9pt)

22

4-③

児童生徒の個々のねらいに即した教材教具の開発を行い、活用を図っている。

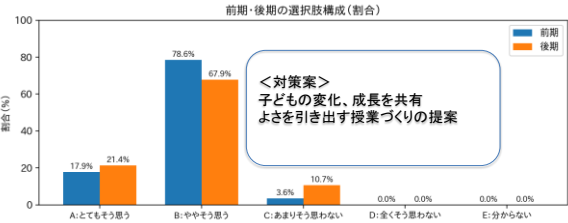


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.4% → 92.9% (-3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : やや思う (-7.1pt)

23

4-④

児童生徒の一人一人の個性やよさを生かす指導や評価を工夫している。

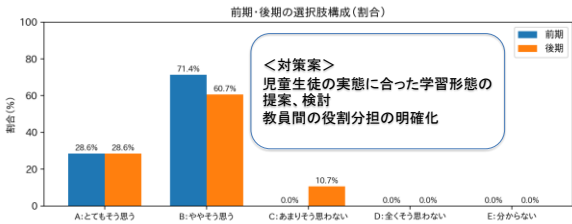


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.4% → 89.3% (-7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : やや思う (-10.7pt)

24

4-⑤

グループ別学習、個別指導など、児童生徒の実態や学習活動に適した学習形態を工夫し、教員間の連携を図って実施している。

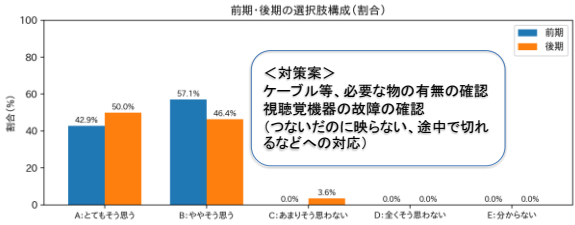


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 100.0% → 89.3% (-10.7pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: B: ややそう思う (-10.7pt)

25

4-⑥

PCやプロジェクターなど様々な視聴覚機器の有効な活用を図っている。

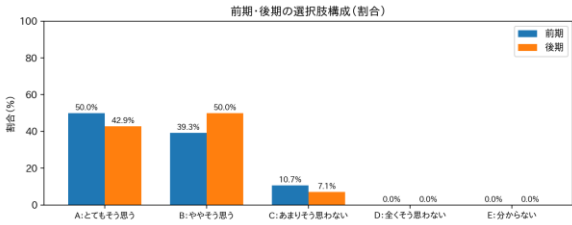


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 100.0% → 96.4% (-3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: B: ややそう思う (-10.7pt)

26

4-⑦

クロームブックを活用した授業実践を工夫して行っている。

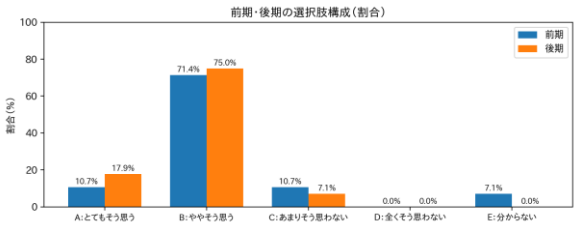


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 89.3% → 92.9% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: B: ややそう思う (+10.7pt)

27

4-⑧

指導のねらいや指導結果等について保護者に対して分かりやすく説明している。

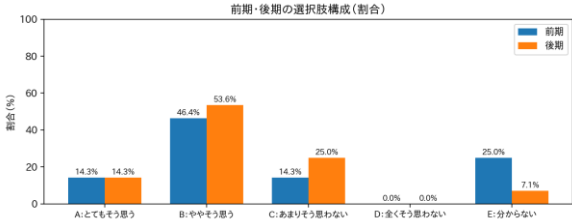


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 82.1% → 92.9% (+10.7pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: A: ともそう思う (+7.1pt)

28

4-⑨

交流及び共同学習では、双方の児童生徒の目標が達成されるように計画・実施されている。

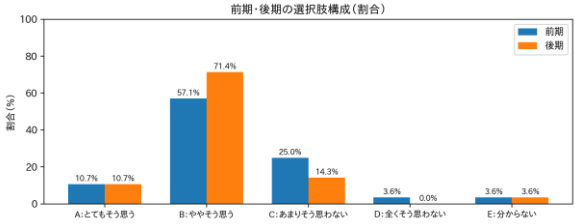


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 60.7% → 67.9% (+7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: E: 分からない (-17.9pt)

29

4-⑩

児童生徒が日常生活に生かすことができるように、適切に道徳教育が行われている。

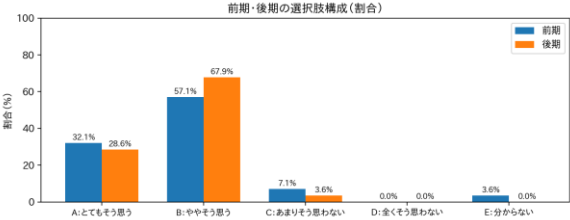


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 67.9% → 82.1% (+14.3pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: B: ややそう思う (+14.3pt)

30

4-⑩

チャレンジタイムは将来につながり、かつ本人が目標をもって取り組める学習活動になっている。



【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 89.3% → 96.4% (+7.1pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢: B: ややそう思う (+10.7pt)

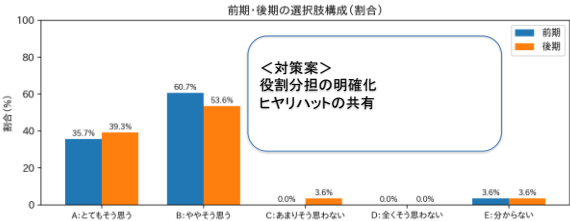
31

前期	後期
年間指導計画の小、中、高の系統性はできている部分はあるが、できていない部分もある	チャレンジタイムは、数年おきに研究して質の維持と向上を図っていけるとよいと思います。その価値がある取組だと思っています。
個別の支援計画、指導計画の目標が児童間で同じであるはずはない。	年間指導計画や教育支援計画を確認して取り組むことができていない、実態把握ができていない(過去の学習履歴を確認していない)、教員側の基礎的な学力や読解力、思考力などが不足していると感じることがある。どうすればよいのか分からない。
年度途中の柔軟な変更ができない。	
チャレンジの根本的なやり方を変えている学級がある。	
成績関係の書類が多い、1枚にまとめられるのでは。	

32

5-①

事故・事件が発生した場合、組織的に連携し適切に対処している。

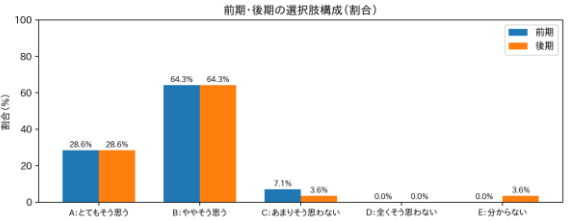


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 96.4% → 92.9% (-3.6pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢: B: ややそう思う (-7.1pt)

33

5-②

不審者対応、危機管理などに対して未然の対策が適切に考えられている。

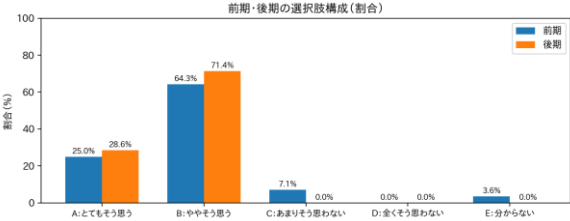


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 92.9% → 92.9% (+0.0pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢: C: あまりそう思わない (-3.6pt)

34

5-③

交通ルールや公共交通機関、公共施設の利用に対する指導ができています。

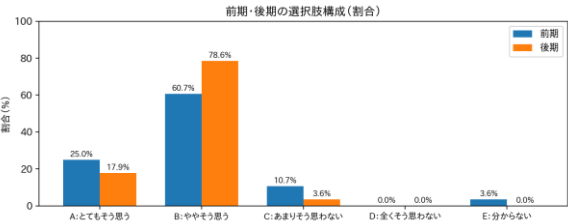


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 89.3% → 100.0% (+10.7pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢: C: あまりそう思わない (-7.1pt)

35

5-④

あいさつなどの基本的な生活習慣や相手と自分を大切にする(体やかな心と体に関する)指導ができています。

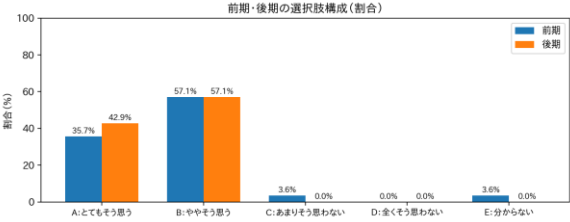


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 85.7% → 96.4% (+10.7pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢: B: ややそう思う (+17.9pt)

36

5-⑤

生徒会活動や学校行事で児童生徒が主体的に取り組むための工夫がされている。

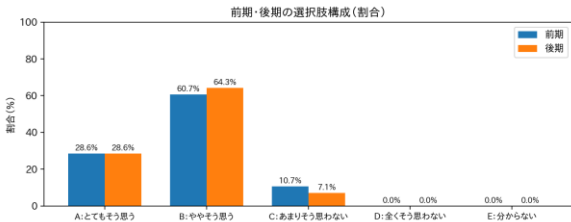


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 92.9% → 100.0% (+7.1pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : A : とても思う (+7.1pt)

37

5-⑥

家庭、地域、関係機関との連携を図るために、情報交換を継続的にやっている。



【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 89.3% → 92.9% (+3.6pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : B : やや思う (+3.6pt)

38

※前期と後期で設問を変更したため、グラフ化していない。

5-⑦

前期: 保健室と学級が連携している。(学習活動、保護者対応など)

A: 17 B: 10 E: 1 A+B=27 96%

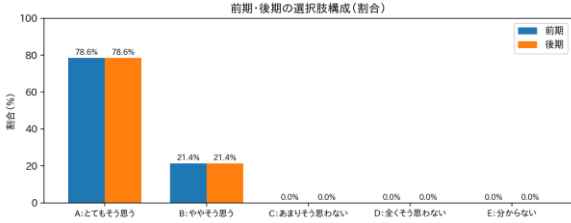
後期: 学校全体で連携して、傷病者等への対応が適切に行われている。

A: 12 B: 16 A+B=28 100%

39

5-⑧

食育が充実している。

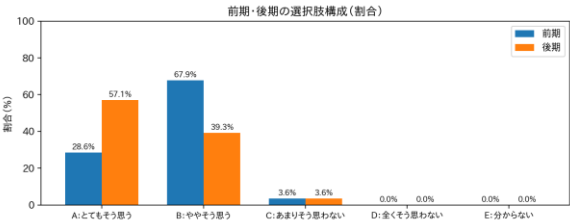


【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 100.0% → 100.0% (+0.0pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : A : とても思う (+0.0pt)

40

5-⑨

感染対策など衛生面の対策が行われている。



【比較の要点】 肯定的 (A+B) : 96.4% → 96.4% (-0.0pt)
【構成の変化】 最も動いた選択肢 : B : やや思う (-28.6pt)

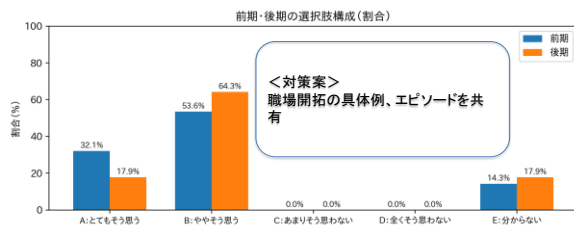
41

前期	後期
他の学校と比べると、自分から挨拶しようと思っけている生徒は少ないと感じる。もっと生徒への指導をしないと、感じる日々です。 保護者や関係機関との情報交換は、送迎時の短時間のみの。	避難訓練は、全体で集まって行う機会は増やさないといけないと思うのですが各学級で実施する回数は増やした方がよいと思っています。1回の時間は、数分でよいと思います。 朝の時間帯、正面玄関の開錠の手間を省いたがために、悪意をもった人が簡単に侵入できる状態になっており心配。正面玄関は常時施錠しておいてよいと思う。

42

6-①

本人及び保護者のニーズに沿った職場開拓に努めている。



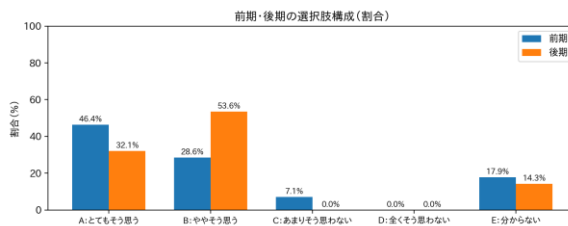
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 82.1% (-3.6pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (-14.3pt)

43

6-②

労働機関や行政機関等の関係機関と連携し、就労支援を行っている。



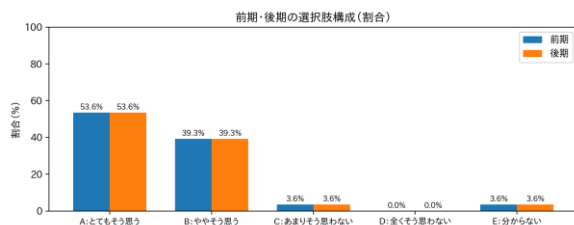
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 75.0% → 85.7% (+10.7pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : やや思う (+25.0pt)

44

6-③

保護者への進路研修や就業体験参観の場を計画的に設けている。



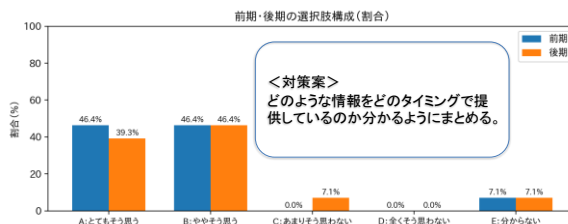
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 92.9% (+0.0pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+0.0pt)

45

6-④

保護者が進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。



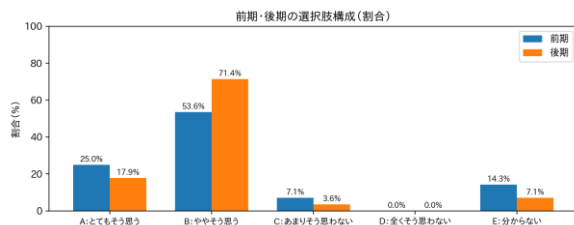
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 85.7% (-7.1pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (-7.1pt)

46

6-⑤

教員が進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。



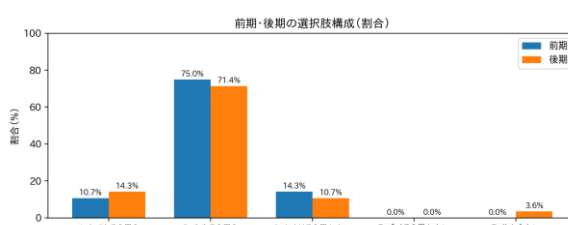
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 78.6% → 89.3% (+10.7pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : やや思う (+17.9pt)

47

6-⑥

児童生徒が将来の夢や希望をもてるように指導している。



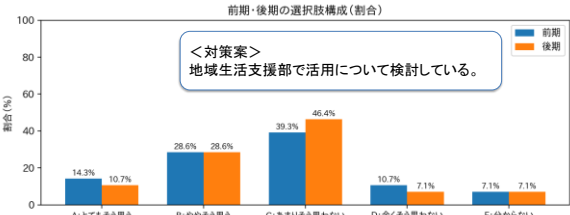
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 85.7% (+0.0pt)

【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+3.6pt)

48

6-②

キャリアパスポートを活用している。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 42.9% → 39.3% (-3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : C : あまりそう思わない (+7.1pt)

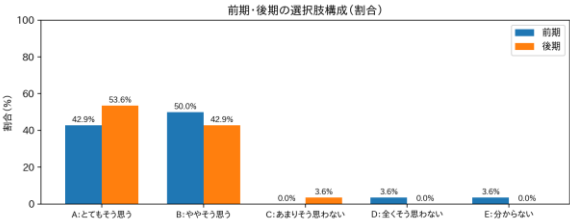
49

前期	後期
高等部の保護者は就業体験や授業参観など、毎月のように学校に來られているので、連携は図れていると思う。 キャリアパスポートの活用の仕方がわからない。	高等部だけではなく、他学部の先生方までも達の卒業後の姿を知っておくと、日頃の支援に生かせると思うので、アフターケアの形で見学に行く機会があるとよいと思います。でも、負担になると困るので一度行くのは一度だけ。それと、全く生徒について知らない人がいくとアフターケアとして行く意味がないので、小中学部のときに関わりがあった先生がよいと思います。高等部の負担軽減にもなると思います。 進路指導主事がほぼ背負っていると思う。本校で開催されている研修会や講演会に参加したり、資料に目を通したり、進路指導主事から発信される情報を自分事として捉えられるとよいと思う。

50

7-①

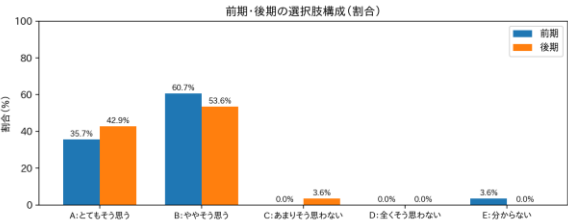
保護者から児童生徒について相談があった場合、受け入れ体制が整っている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 96.4% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とてもそう思う (+10.7pt)

51

7-② ニーズに応じた学校見学会や体験学習を設定している。

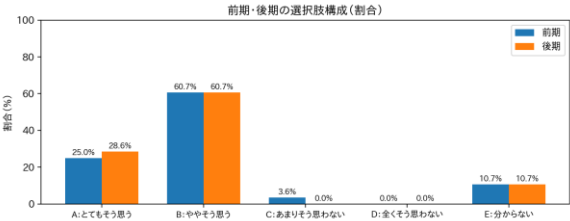


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.4% → 96.4% (+0.0pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とてもそう思う (+7.1pt)

52

7-③

関係機関との連携が取りやすい体制になっている。



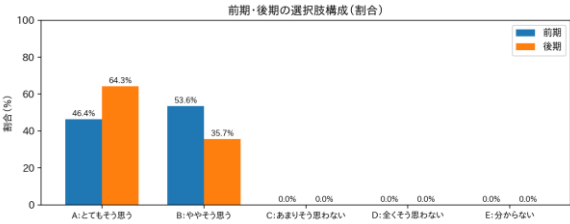
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 89.3% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : C : あまりそう思わない (-3.6pt)

53

前期	後期
滑舌や発声に困難を抱えている児童生徒も多くみられるので、OTばかりでなく、STとの連携も図れたらよいと思います。	体験や入検前の案内を送る作業の負担が大きいと思うので、この業務は教育相談の業務ではなく事務の方をお願いする業務にできると負担が減らせると思います。

54

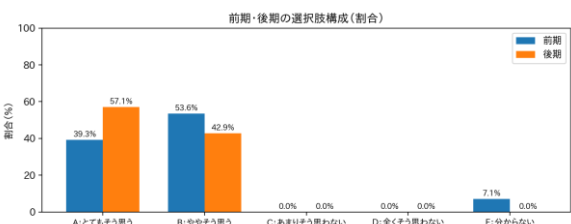
8-①
附属校としての使命に基づき、教育実習等の教員養成に取り組んでいる。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 100.0% → 100.0% (+0.0pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+17.9pt)

55

8-②
大学の授業や卒論に関わる取組の受け入れについて協力体制が取れている。



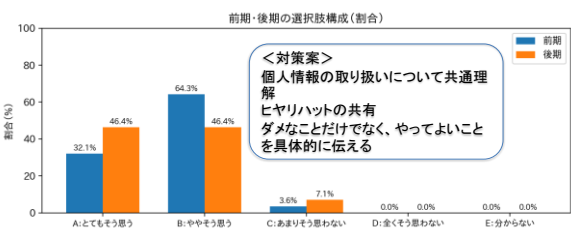
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 100.0% (+7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+17.9pt)

56

前期	後期
	教育実習に取り組む姿勢を、大学側でしっかりと事前に学ぶべきだと思う 同じ人ばかりが担当にならないように調整していいと思います。公開担当と学級担当もバランスよく担当していいと思います。

57

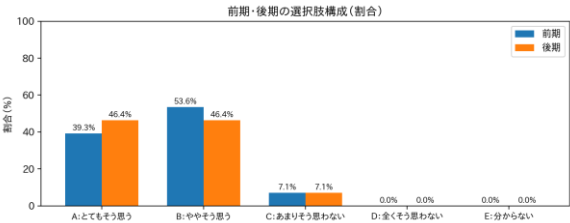
9-①
個人情報の管理を適正に行い、保護の徹底を図っている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.4% → 92.9% (-3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : B : やや思う (-17.9pt)

58

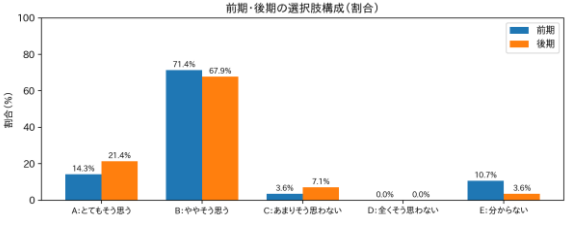
9-②
ホームページやクロームブックを活用して、保護者や地域社会に本校の教育活動を発信している。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 92.9% (+0.0pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+7.1pt)

59

9-③
児童生徒に応じたデジタルシチズンシップ教育が行われている。

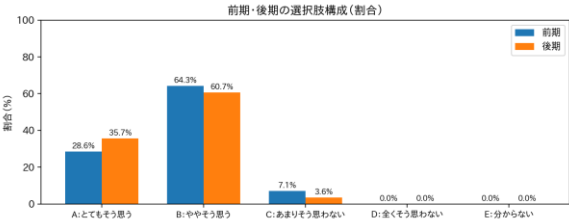


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 89.3% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とても思う (+7.1pt)

60

9-④

教育活動や校務を遂行するために情報機器が整備されている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 92.9% → 96.4% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: A : とても思う (+7.1pt)

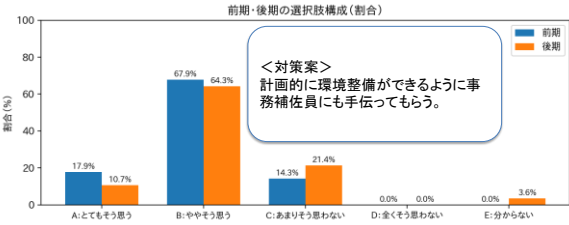
61

前期	後期
情報機器の接続トラブルが生じないように改善してほしい。	情報に限らずですが、掲載の同意を毎年取るのではなく、基本的には入学時に得た同意を基にしていけるとよいと思います。毎年見直しをするのは負担が大きいです。作品等についても同様に思っています。 Classroomの活用(投稿頻度)が減った。個人的には、「連絡帳で様子を伝える日」「写真を投稿(1枚)するだけの日」のようにして、連絡帳を書く負担(?)を減らしながらも、保護者と連携を図っていきたい。

62

10-①

教室や特別教室の環境整備を計画的に行っている。

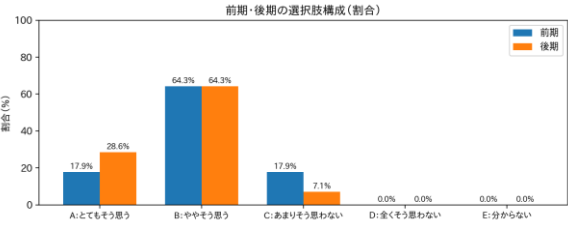


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 75.0% (-10.7pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: A : とても思う (-7.1pt)

63

10-②

教職員が役割分担をし、施設・設備の効果的な活用と管理・安全点検をしている。

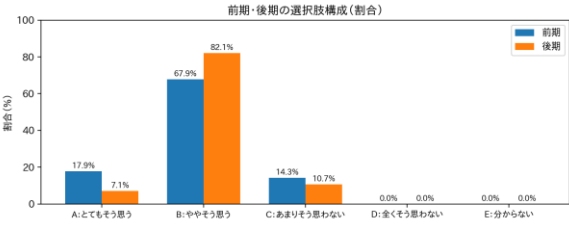


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 82.1% → 92.9% (+10.7pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: C : あまりそう思わない (-10.7pt)

64

10-③

教科別の指導・領域教科を合わせた指導など学習活動に必要な教材・教具、最新の機器などが充実している。

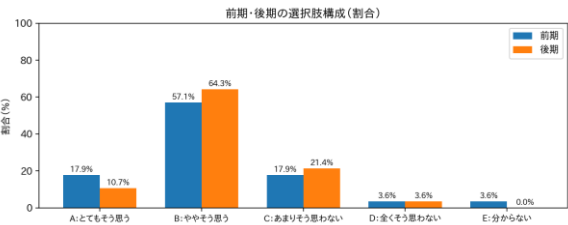


【比較の要点】肯定的 (A+B) : 85.7% → 89.3% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: B : やや思う (+14.3pt)

65

10-④

要修繕箇所の発見時、報告・連携により、迅速な修繕や原因確認、再発予防に備えている。



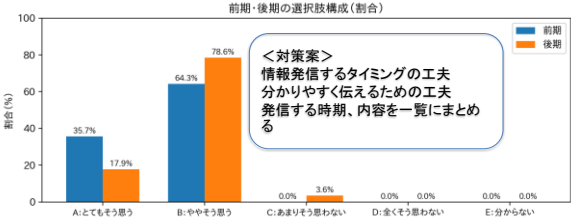
【比較の要点】肯定的 (A+B) : 75.0% → 75.0% (+0.0pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢: B : やや思う (+7.1pt)

66

前期	後期
修繕箇所について、可能なものは用務員が即座に対応して下さるのでありがたいです。 校内に危険を感じるひび割れが多く見られるのが気になります。 各職員室にコピー機が1まい。 高等部清掃班の用品は、大学の先生方の科研費で買っていたものやライオンズクラブからの寄贈品と思われるものがあります。近いうちに経年劣化等でも壊れてしまうものもありそうです。高等部の作業会計では買えないような高価なものもあり、不安です。清掃班の道具は生徒たちだけでなく、夏休みのフックス掛けで用務員さんも使っているので、学校の予算、あるいは外部からの寄付等があればいいと思っています。 教室や廊下のカビが多すぎます。すぐに対策が必要だと思います。 項目と違っているかもしれませんが、教材研究用に教科書を充実させてほしい。せめて小・中学校の検定本は全ての教科が揃っているといい。(富山市が採択している出版社のものだけでいいので)児童生徒の学習活動が充実するためにも、教員の授業作りが、各教科等の指導内容に応じて適切に行うことができる環境が整うといい。	学習室のようなものがあればいいと思います。 財源がない中で工夫してなんとか現状維持ができています。そうしていかないといいと思います。 校内のカビについては、子ども達の成長後に影響がないかどうか心配なのでなんとかしたいです。特に、配膳台が置いてある壁にカビが発生しているのがとても気になっています。 倉庫、職員室などが雑然としている。日頃から整理整頓できるといいと思う。

67

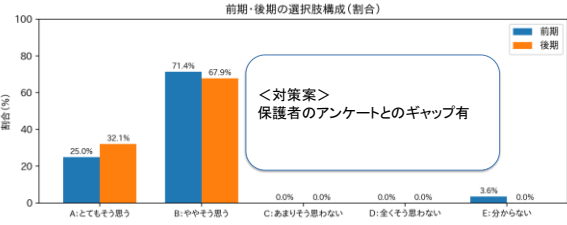
11-① 保護者への情報発信が十分に行われている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 100.0% → 96.4% (-3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とてもそう思う (-17.9pt)

68

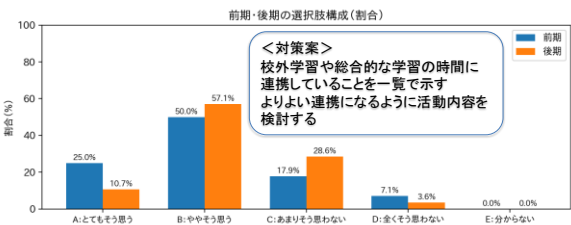
11-② 保護者の意見を十分に聞いている。また、願いに応じている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 96.4% → 100.0% (+3.6pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とてもそう思う (+7.1pt)

69

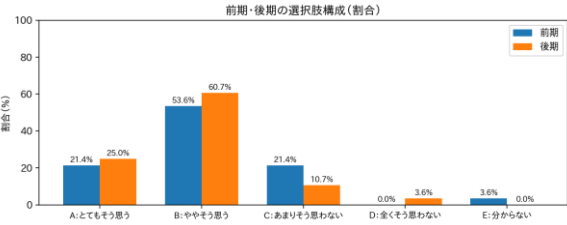
11-③ 地域や民間、関係機関と連携を図り教育活動に生かしている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 75.0% → 67.9% (-7.1pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : A : とてもそう思う (-14.3pt)

70

11-④ 大学との連携を十分に図っている。



【比較の要点】肯定的 (A+B) : 75.0% → 85.7% (+10.7pt)
【構成の変化】最も動いた選択肢 : C : あまりそう思わない (-10.7pt)

71

前期	後期
昨年度より風通しが良くなった気がしています。 先生方にとって働きやすい環境づくり＝子どもたちにとって良い環境が整うと考えて、職員室や執務室が居心地の良い場所になると良いなと思っています。 一人一人が不足ばかり強調するのではなく、建設的に意見を言い合えると良いと感じています。 地域との関わりがもう少しあってもよいのではと思う。	よい学校だと思っています。今後ますますよい学校になりますように。 学校評価の指標が二重に設定され、最初は自分の思いを、括弧内では取組の評価を尋ねられ、回答する際に迷うことがある。この指標は「あまりそう思わない」しかし括弧内は「おおむねよい状況」とあり、直感と逆転した表現が特に分かりにくい。また、Eの「分からない」が並列しているが、尺度とはならないのではないかと。

72

R7年度学校評価 教職員アンケート 分析結果

1 A（とてもあてはまる）の項目が10%を下回るもの

区分	質問内容	前期	後期
学校教育目標	1 学校教育目標及び教育方針が、教職員・保護者に理解されている。	▲	
	2 学校教育目標を具現化した目指す子ども像・各学部の目標が、教職員・保護者に理解されている。	▲	
施設設備	3 教科別の指導・領域強化を合わせた指導に必要な教材・教具の機器などが充実している		▲

2 A（とてもあてはまる）とB（ややあてはまる）の項目を合わせて75%を下回るもの

区分	質問内容	前期	後期
運営・組織	3 教職員一人一人の能力や適性を考慮した校務の分担がされている。	▲	▲
	6 教職員の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	▲	▲
	8 働き方改革への取組が適切に行われている。	▲	▲
研修	4 校内・校外の研修会に進んで参加するなど、教員としての資質や専門性の向上に努めている		▲
	5 地域のモデル校としての実践をし、発信や研修の受け入れをしている。		▲
学習指導	2 個別の指導計画・個別の教育支援計画を適切に作成し、活用している。		▲
	9 交流及び共同学習では、双方の児童生徒の目標が達成されるように計画・実施されている。	▲	▲
	10 児童生徒が日常生活に生かすことができるように、適切に道德教育が行われている。	▲	
進路指導	7 キャリアパスポートを活用している。	▲	▲
施設・設備	4 要修繕箇所の発見時、報告・連携により、迅速な修繕や原因確認、再発予防に備えている。	▲	
開かれた学校	3 地域や民間、関係機関と連携を図り教育活動に生かしている。		▲

3 次年度に向けて

学校教育目標	・4月に学校教育目標や目指す子ども像を学部ごとに教職員で共有した。年度末にその振り返りを行う。今後もそのサイクルを続け、学校教育目標や目指す子ども像と学校生活、授業、家庭とのつながりを明確にして授業づくりに取り組んでいく。
運営・組織面	・ヒアリングを基に来年度の校内配置を検討する。教員同士の相互理解を促す取り組みを学部ごとに行っていく（会議前のアイスブレイク等）。業務を削減するという視点だけでなく、縮小させるという視点で業務の見直しを行う。先生方の「もっとこうすれば」を少しずつ実現させていきたい。
研修	・計画的に県外出張に派遣する。県内外、オンラインの研修の案内を周知し、積極的に参加できるようにする。
学習指導面	・保護者アンケートでも個別の支援計画、指導計画が有効に活用されていないという声が多い。特に重点目標が書きにくい、分かりにくいという声が多かったので、書式を変更した。
進路指導面	・地域生活支援部でキャリアパスポートの活用について検討してもらっている。
開かれた学校	・校外学習、総合的な学習の時間、探究の時間、生活単元学習、就業体験等で、地域や民間、関係機関で学習する機会があるので、より子どもたちの学びになるためにはどのような連携があったらよいのかを検討する。

項目	A+B(%)
5-③ 交通ルールや公共交通機関、公共施設の利用に対する指導ができている。	100
5-⑤ 生徒会活動や学校行事で児童生徒が主体的に取り組むための工夫がされている。	100
5-⑦ 学校全体で連携して、傷病者等への対応が適切に行われている。	100
5-⑧ 食育が充実している。	100
8-① 附属校としての使命に基づき、教育実習等の教員養成に取り組んでいる。	100
8-② 大学の授業や卒論に関わる取組の受け入れについて協力体制が取れている。	100
11-② 保護者の意見を十分に聞いている。また、願いに応じている。	100
1-③ 教育活動全般にわたって評価を行い、次の計画に生かしている。	96.4
4-⑥ PC やプロジェクターなど様々な視聴覚機器の有効な活用を図っている。	96.4
4-⑪ チャレンジタイムは将来につながり、かつ本人が目標をもって取り組める学習活動になっている。	96.4
5-④ あいさつなどの基本的生活習慣や相手と自分を大切にすること(健やかな心と体に関する)指導ができている。	96.4
5-⑨ 感染対策など衛生面の対策が行われている。	96.4
7-① 保護者から児童生徒について相談があった場合、受け入れ体制が整っている。	96.4
7-② ニーズに応じた学校見学会や体験学習を設定している。	96.4
9-④ 教育活動や校務を遂行するために情報機器が整備されている。	96.4
11-① 保護者への情報発信が十分に行われている。	96.4
1-① 学校教育目標及び教育方針が、教職員・保護者に理解されている。	92.9
2-① 校長・副校長は自らの教育理念や学校運営について考えをもち、リーダーシップを発揮している。	92.9
4-③ 児童生徒の個々のねらいに即した教材教具の開発を行い、活用を図っている。	92.9
4-⑦ クロームブックを活用した授業実践を工夫して行っている。	92.9
4-⑧ 指導のねらいや指導結果等について保護者に対して分かりやすく説明している。	92.9
5-① 事故・事件が発生した場合、組織的に連携し適切に対処している。	92.9
5-② 不審者対応、危機管理などに対して未然の対策が適切に考えられている。	92.9
5-⑥ 家庭、地域、関係機関との連携を図るために、情報交換を継続的に行っている。	92.9
6-③ 保護者への進路研修や就業体験参観の場を計画的に設けている。	92.9
9-① 個人情報の管理を適正に行い、保護の徹底を図っている。	92.9
9-② ホームページやクロームブックを活用して、保護者や地域社会に本校の教育活動を発信している。	92.9
10-② 教職員が役割分担をし、施設・設備の効果的な活用と管理・安全点検をしている。	92.9
1-② 学校教育目標を具現化した目ざす子ども像・各学部の目標が、教職員・保護者に理解されている。	89.3
2-② 教頭・学部主事は、校長・副校長の教育理念や学校運営の方針の実現に向けて、教職員の指導を行っている。	89.3
4-① 年間指導計画を整備し、小・中・高の一貫・継続した指導に努めている。	89.3
4-④ 児童生徒の一人一人の個性やよさを生かす指導や評価を工夫している。	89.3

4-⑤ グループ別学習、個別指導など、児童生徒の実態や学習活動に適した学習形態を工夫し、教員間の連携を図って実施している。	89.3
6-⑤ 教員が進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。	89.3
7-③ 関係機関との連携が取りやすい体制になっている。	89.3
9-③ 児童生徒に応じたデジタルシチズンシップ教育が行われている。	89.3
10-③ 教科別の指導・領域教科を合わせた指導など学習活動に必要な教材・教具、最新の機器などが充実している。	89.3
2-⑦ 教職員一人一人が、服務に対する自覚をもち続けている。	85.7
3-① 附属校としての使命に基づき、研究に取り組んでいる。	85.7
3-② 教育目標の具現化に向けた校内研究・研修を進めている。	85.7
6-② 労働機関や行政機関等の関係機関と連携し、就労支援を行っている。	85.7
6-④ 保護者が進路について考えるための情報提供を分かりやすく行っている。	85.7
6-⑥ 児童生徒が将来の夢や希望をもてるように指導している。	85.7
11-④ 大学との連携を十分に図っている。	85.7
3-⑤ 地域のモデル校としての実践をし、発信や研修の受け入れをしている。	85.2
2-④ 分掌相互の連絡・調整が円滑に行われ、有機的に機能している。	82.1
3-③ 校内研修を計画的に推進し、実践の場で生かしている。	82.1
4-⑩ 児童生徒が日常生活に生かすことができるように、適切に道德教育が行われている。	82.1
6-① 本人及び保護者のニーズに沿った職場開拓に努めている。	82.1
2-⑤ 教職員の意見が教育活動や学校運営に反映され、意欲的に取り組める環境となっている。	75
10-① 教室や特別教室の環境整備を計画的に行っている。	75
10-④ 要修繕箇所の発見時、報告・連携により、迅速な修繕や原因確認、再発予防に備えている。	75
2-⑥ 教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。	71.4
4-② 個別の指導計画・個別の教育支援計画を適切に作成し、活用している。	71.4
2-③ 教職員一人一人の能力や適性を考慮した校務の分担がされている。	67.9
3-④ 校内・校外の研修会に進んで参加するなど、教員としての資質や専門性の向上に努めている。	67.9
4-⑨ 交流及び共同学習では、双方の児童生徒の目標が達成されるように計画・実施されている。	67.9
11-③ 地域や民間、関係機関と連携を図り教育活動に生かしている。	67.9
2-⑧ 働き方改革への取組が適切に行われている。	42.9
6-⑦ キャリアパスポートを活用している。	39.3

6 令和7年度 学校行事等

(1) 主な行事

月	日	曜日	行事名等	備考
4	8	火	始業式	
	9	水	入学式	小学部3名、中学部3名、高等部8名
	27	土	授業参観、PTA わかば会集会等	
5	15	木	中学校との合同運動会	観客あり 動画配信
	28	水	個別懇談会	午後放課
	29	木	個別懇談会	午後放課
	30	金	懇談会	午後放課
6	3	火	小学部学校見学会	
	5	木	中学部学校見学会	
	6	金	高等部学校見学会	
	9	月	高等部春季就業体験（～20 金）	
	12	木	校内就業体験参観 小中学部授業参観	
	26	木	中学部修学旅行（～27 金）	宿泊あり 関西方面
7	1	火	学校説明会	
	10	木	中学部宿泊学習（～11 金）	1・2年生 1泊
	18	金	夏休み前集会	
	22	火	高等部進路懇談会（～25 日金）	
	23	水	ディサービス機関面談（～24 木）	
	28	月	中学部体験学習	
	30	水	小学部親子体験学習	
	31	木	高等部体験学習	
8	28	木	夏休み明け集会	
	29	金	教育実習開始（～9/19 金）	
9	29	月	個別懇談会（～30 火）	午後放課
	30	火	前期終業式	
10	1	水	開学記念日	
	2	木	後期始業式 いじめ防止集会	
	11	土	学習発表会	午前開催 近隣・同窓生へ案内
11	4	火	中学部秋季就業体験（～10 月） 高等部秋季就業体験（～21 金）	
	7	金	校内就業体験参観 小学部授業参観 給食試食会 食と健康についてのおはなし会	
	30	日	入学検査（小・中）	
12	1	月	入学検査（高）	
	16	火	高等部進路懇談会（～17 水）	
	18	木	冬休み前集会	
	19	金	公開教育研究会	全日開催 参集のみ 県内外から53名

1	8	木	冬休み明け集会	
	15	木	高3 冬季就業体験（～21 水）	
2	2	月	児童生徒会会長選挙	
	4	水	選挙について出前講座	2 月衆院選、高3 生が実際に投票した。
	16	月	後期児童生徒会総会	
	18	水	人文学部心理実習受け入れ（～20 金）	
	25	水	人文学部心理実習受け入れ（～27 金）	
3	6	金	卒業を祝う会	
	13	金	卒業式	小学部2 名、中学部5 名、高等部8 名
	19	木	修了式	

※今年度は年間を通して91名の介護等体験生を受け入れた。

（2） 交流及び共同学習

	交流校	本校参加学年	主な内容
小学部	附属小学校4年生	3,4,5,6年生	さつまいもの苗植え 集会等
	居住地校	7名	通常級及び特別支援学級にて交流
中学部	附属幼稚園		リサイクル班のアルミ缶回収
	附属小学校		リサイクル班のアルミ缶回収
	附属中学校		リサイクル班のアルミ缶回収 総合的な学習の時間の世界のスープ調べで間接交流
高等部	附属幼稚園		ものづくり班の製品販売
	附属小学校		清掃班の清掃活動
	附属中学校		清掃班の清掃活動

（3） 校外学習

本校では、借り上げバスや公共交通機関を利用して、校外学習を実施している。授業で学習したことの体験や余暇を豊かにするための学習を積み重ね、公共施設の使い方に慣れていくことを目的にしている。

○小学部

期日	学年	行先	利用交通機関	主な内容
5/22	1～6	太閤山ランド	借り上げバス	自然体験 余暇学習
6/19	3・4	交通安全博物館	借り上げバス	施設見学 交通安全
6/26	1・2	こども図書館・五福児童館	借り上げバス	施設利用 絵本利用
7/3	5・6	富山市内（岩瀬等）	路線バス 市内電車	施設見学 仕事見学
10/23	1～6	魚津ミラージュランド	借り上げバス	施設利用 余暇学習
11/6	5・6	富山地区広域圏クリーンセンター他	借り上げバス	施設見学 仕事見学
11/20	1・2	大島絵本館 大島中央公園	借り上げバス	施設利用 絵本利用
11/26	3・4	富山市科学博物館	借り上げバス	施設利用 見学

○中学部

期日	学年	行先	利用交通機関	主な内容
6/26～27	3	京都 大阪	新幹線 タクシー	修学旅行
7/10～11	1・2	呉羽青少年自然の家	借り上げバス	共同宿泊学習
9/26	1・2	マルート	路線バス	施設利用 買い物学習
10/21	3	フレンドリーハウス	借り上げバス	進路学習
11/21	1～3	ファボーレ	借り上げバス	施設利用 買い物学習

○高等部

期日	学年	行先	利用交通機関	主な内容
5/23	2	グループホームいいね幸町 B型いいね	借り上げバス	事業所見学
5/17	1	富山大学キャンパスグリーンチーム 多機能型わくわくファームきらり	借り上げバス	事業所見学
7/10	1	富山市役所 ハローワーク	路線バス	進路学習 食事
	2	富山市婦中体育館 ファボーレ	路線バス	施設利用 買い物学習
	3	富山市役所 ハローワーク	路線バス	進路学習 食事
9/12	1	新湊 氷見 高岡	借り上げバス	郷土学習 施設利用
1/16	1	マルート	路線バス	余暇学習 買い物学習
	2	富山土人形工房 マルート	路線バス 市内電車	余暇学習 買い物学習
1/30	3	ジャンカラ富山駅前店 マルート	路線バス	余暇学習 買い物学習

(4) 進路指導

○小学部

- ・3組 秋季就業体験中に高等部生徒と同じ場で仕事をする体験を行う。
中学部の作業学習を見学する機会を設定する。

○中学部

- ・就業体験は秋季のみとし、春季就業体験期間中に高等部の就業体験等の見学を行う。

○高等部

- ・高1の秋季就業体験から校外で実習を行う。働くことのイメージをもてるように、段階的に進路学習を進めている。
- ・生徒のニーズに応じた進路学習及び校外就業体験を通して、自己理解を進め本人が適切に進路を決定できるように支援している。
- ・保護者にも進路研修会や進路懇談会を重ねることで、子どもに合った就業先について考える機会になり、事業所や企業等の見学希望が増えている。

進路だより No. 1



富山大学教育学部附属特別支援学校
地域生活支援部

ご進級、ご入学おめでとうございます。新たな学部、学年での活動のスタートです。

3月に高等部を卒業した先輩達も、それぞれの進路先での新生活をスタートさせています。児童生徒の皆さんも、将来の生活に向けて、働くこと、暮らすこと、遊ぶことに目標をもち、一步一步取り組んでいきたいですね。保護者の皆様には、今年度も引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いします。

令和6年度卒業生の進路先

<福祉的就労>

- | | |
|----------------------|-------------|
| ・ 婦中生活介護事業所 つつじ | (生活介護事業所) |
| ・ J O B 相生 | (生活介護事業所) |
| ・ バーガーキングマリエとやま店 | (就労継続支援B型) |
| ・ ワークハウス ぬ | (就労継続支援B型) |
| ・ きずな | (就労継続支援B型) |
| ・ 株式会社 PERSON 'S あかり | (就労継続支援A型) |
| ・ 株式会社 PERSON 'S いずみ | (就労継続支援A型) |
| ・ 作業センター ふじなみ | (就労移行支援事業所) |



～福祉サービス事業所について～

◆生活介護事業所

日常生活面（排泄、食事など）での支援を受けながら創作的活動又は生産活動の機会を提供する。

◆就労継続支援A型(雇用型)事業所

◆就労継続支援B型(非雇用型)事業所

一般企業等での就職が難しい人に、働く場を提供するとともに、知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。

◆就労移行支援事業所

一般企業等への就職を希望する人に、一定期間、就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練を行う。

～4・5・6月の進路関係行事予定～

- 5月 2日(金) 進路研修会
- 5月 23日(金) 高等部2年生事業所見学
- 5月 28日(水)～30日(金) 校内就業体験説明会
- 6月 9日(月)～6月20日(金) 春季就業体験
- 6月12日(木) 校内就業体験保護者参観
- 6月17日(火) 高等部1年生事業所見学

校外就業体験保護者参観(中・高等部保護者)



Google Classroom

進路の部屋

Googleクラスルームに事業所の情報、研修会のお知らせや報告など進路に関する情報が載せてあります。ご利用ください。随時情報を更新していききたいと思います。38

進路研修会について

本校進路指導主事より、本校の進路学習の取組や指導の実践についてお話をする予定です。対象は、全学部の希望保護者です。

事業所(グループホーム)見学について

富山市にある「グループホームいいね」を見学します。担当者の方より実際の生活の様子についてお話を聞きます。対象は、高等部2年生と中学部、高等部の希望保護者です。



なんでもお聞かせください

進路について気になることは、何でもお知らせください。調べたり、関係機関の方に話を聞いたりして、お伝えしたいと思います。また、事業所見学のご希望があれば、日程調整をいたします。ご家庭との連携を図りながら、より良い進路支援に努めていきたいと思っております。

よろしくお願いします

進路指導主事 金森





進路だより No.2

富山大学教育学部附属特別支援学校
地域生活支援部

年末も近づき、朝晩の冷え込みがますます厳しくなってきました。今号では、秋季就業体験の様子を中心に伝えたいと思います。

11/4 (火) ~ 21 (金) 秋季就業体験
11/4 (火) ~ 10 (月) 中・高合同就業体験

校内

割り箸班



衛生面に特に注意して箸入れを行いました。慣れるまで大変でしたが、がんばりました。

ごみ袋班



製品作りでは、ごみ袋のしわや向きに気を付けながら、包装袋に入れました。

紙袋班



手順表やツールを使い、繰り返し作ること、のり付けやテープ貼りが上達しました。

油すいとーる班 (高等部)



牛乳パック切り、ミキサー、袋詰めなど担当の仕事を工程表で確認してチームで製品作りに取り組みました。

カレンダー班 (高等部)



今年もたくさんの会社から依頼をいただきました。会社によって巻き方や案内文の有無など、違いがありましたが、確認しながら最後までがんばりました。

お正月飾り班 (高等部)



お客さんの手に渡る縁起物なので、きれいな製品になるよう、丁寧に飾りを製作し、各飾りのバランスを考えながら仕上げました。

紙袋の納品を行いました！

就業体験中に販売する製品や依頼された仕事に取り組むことで、依頼主やお客さんのことを考え、不良品を少なく、丁寧に作ろうとする意欲につながったように思います。



作業製品、販売しています！

就業体験や作業学習で制作した製品を児童生徒玄関前で販売しています。送迎や懇談会などで学校へいらした際に、ぜひご覧ください！



校外

今回も、多くの企業・事業所のみなさんのご協力のもと、実施することができました。



今年度、就業体験でお世話になった企業・事業所

〈企業〉

- ・ マックスバリュ射水鷺塚店
- ・ スーパーマーケットバロー 北の森店
- ・ ニチケアセンター富山
- ・ 富山総合ビルセンター
- ・ 株式会社バロン
- ・ 株式会社ムラタコスモス 富山分室
- ・ 北陸電力ウィズスマイル株式会社
- ・ 朝日印刷ビジネスサポート株式会社
- ・ 富山大学キャンパスクリーン

〈A型事業所〉

- ・ いずみ ・ ボンクラージュ ・ MUROYA
- ・ うちくるアシスト ・ 希望のきずな

〈B型事業所〉

- ・ きずな ・ ひまわり ・ ALSIA 富山
- ・ 作業センターふじなみ ・ えみふる ・ きらら
- ・ MUROYA ・ ヴィストジョブズ富山駅前
- ・ セリユー ・ やねのうえのガチョウ
- ・ フレンドリーハウス ・ あかりハウス
- ・ ほまれの家富山東店 ・ 高志ワークセンター
- ・ ジョブステーションさくら長江事業所
- ・ ジョブステーションさくら奥田事業所
- ・ わくわくファームきらり

〈生活介護〉

- ・ このみ
- ・ ジョブステーションさくら長江事業所

〈移行支援事業所〉

- ・ DXスクールカラフル富山

〈特例子会社について〉

保護者の皆様も「特例子会社」という言葉は聞いたことがあるのではないのでしょうか。

特例子会社とは、障害者の雇用の促進及び安定を図るため、事業主が障害者の雇用に特別の配慮をした子会社のことです。

富山県内にもいくつかあり、卒業生が働いていた、就業体験でお世話になったりしています。富山県内の特例子会社をご紹介します。

特例子会社名	所在地	親会社
アルビスクリーンサポート(株)	射水市	アルビス(株)
小林製薬チャレンジド(株)	富山市	小林製薬(株)
(株)F&F	砺波市	(株)ヨシケイライフスタイル
朝日印刷ビジネスサポート(株)	富山市	朝日印刷(株)
北陸電力ウィズスマイル(株)	富山市	北陸電力(株)
G&Gアソシエイト(株)	富山市	(株)G&Gホールディングス

厚労省 特例子会社一覧 R6. 6. 1 より

上記は親会社が富山県内にある会社ですが、他にも

(株)ムラタコスモス(親会社: 村田製作所)

ウエルシアオアシス(株)(親会社: ウエルシアホールディングス)

(株)富士ユニバーサルネット(親会社: 富士薬品)

もあります。

進路に関する行事予定(1月～)

1月15日(木)～21日(水) 冬季就業体験(高3)

2月17日(火) 就労支援セミナー(高1、2)

令和7年4月吉日

保護者各位

富山大学教育学部附属特別支援学校
校長 小林 真

進路支援関係の行事予定（お知らせ）

令和7年度の進路支援関係の行事を次のとおり予定しています。各行事の詳しいご案内は、その都度、別途お知らせいたします。ご協力くださいますようお願いいたします。

期 日	行 事 名	対 象	備 考
5月 2日（金）午後	進路研修会	全学部保護者	・進路指導主事が、本校の進路指導について話します。
5月23日（金）午前	高等部事業所見学	高等部2年生 中・高希望保護者	・グループホームいいね、B型いいねを見学します。
5月28日（水）午後 29日（木）午後 30日（金）午後	校内就業体験 説明会	高等部保護者	・個別懇談会に合わせて行います。就業体験に初めて参加される方は、懇談の期日に合わせて参加してください。
（高等部） 6月 9日（月）から 6月20日（金）までの 10日間	春季就業体験	（校内就業体験） 高等部1年生 （校外就業体験） 高等部2・3年生	・体験期間中の給食はありません。弁当を持参します。 ・校外就業体験に際しては、初日と最終日に担当者と一緒に体験先へ挨拶に行ってください。（体験先へのお礼は学校が一括して行います。）
6月12日（木）午前	校内就業体験参観	全学部保護者	・同日に小・中学部授業参観があります。
6月17日（火）午前	高等部事業所見学 校外就業体験参観	高等部1年生 中・高等部保護者	・高等部の校外就業体験先などを見学します。
7月22日（火）～ 25日（金）	進路懇談会	高等部保護者	・春季就業体験を振り返り、秋季就業体験に向けた話をします。
8月 5日（火）午後	進路講演会	全学部保護者、 本校教員	
9月29日（月）午後 30日（火）午後	校内就業体験 説明会	中学部保護者	・5月同様、就業体験に初めて参加される方は懇談の期日に合わせて参加してください。

裏面へ→

10月21日（火）	中3進路校外学習	中学部3年生	・卒業生が働いている事業所の見学をします。
（中学部） 11月4日（火）から 11月10日（月）まで の5日間 （高等部） 11月4日（火）から 11月21日（金）まで の14日間	秋季就業体験	（校内就業体験） 中学部生徒 高等部生徒 （校外就業体験） 高等部生徒	・春季と同様に実施します。 ・高等部就業体験期間中に小学部5・6年の児童が就業体験を行います。
11月7日（金）	校内就業体験参観	中・高等部保護者	
12月17日（水） 12月18日（木）	進路懇談会	高等部保護者	・就業体験を振り返り、次年度の就業体験先や今後の進路について話をします。
1月15日（木）から 1月21日（水）までの 5日間	冬季就業体験	高等部3年生	・卒業後の進路予定先で就業体験を行います。
1、2月頃適宜	移行支援会議	高等部3年生	・進路先、相談支援事業所、就業・生活支援センターなど関係機関の方との情報交換を行います。
2月17日（火）午前	特別支援学校就労支援セミナー	高等部1、2年生 高等部希望保護者	・労働局や就業・生活支援センターの方の講演を聞いたり、企業やA型事業所などの紹介を聞いたりします。

※ 期日については、変更する場合がありますので、ご了承ください。

※ 校外就業体験は、個人の目標、学年進行などを考慮して実施します。体験先や体験期間は、本人、保護者の希望を聞いて学校で調整し依頼をし、体験先の受け入れの状況に沿って決定しますので、ご理解をお願いします。

令和7年度第1回 学校評議委員会（記録）

日時：令和7年度8月29日（金）

13：00～14：00

場所：附属特別支援学校 ゆうゆう館

1 学校長あいさつ

- ・教育実習が始まり、校内に会議ができる場所がなく、ゆうゆう館に場所を変更することになった。忌憚のないご意見をいただきたい。

2 委員紹介

3 本校の現状について

（1）運営方針（学校案内より）

- ・働く、暮らす、遊ぶの視点で計画をしている。
- ・教育実習、公開教育研究会がある。
- ・時間があるときに、資料を見ておいてください。
- ・学校の教育具体化研修会を学部ごとに分かれて、各学部の目標を具体化するという活動を行った。学部の教員で共通理解をした。それを基に授業づくりを行っている。

（2）昨年度の卒業生の進路状況→詳細は資料

- ・自分に合った働き方を見つけて福祉就労に進んだ生徒もいる。
- ・生徒本人と話し合って進路を見つけていっている。
- ・本校の離職率は低い。

（3）4月からの様子→詳細は資料の写真

- ・入学式（中学部は定員の3名になった。体験学習のときにはたくさんいたが、本人の学びにあった学びを考えられた結果、このような結果になった。本校の魅力が伝わるように、本校の魅力を伝えていく。
- ・離任式（転出された先生の転出先、転入者を口頭にて紹介。その他、講師として多くの先生方に来ていただいている。）
- ・新入生歓迎会（仲が良い）
- ・交通安全教室（交通ルールを理解、横断歩道の渡り方など）
- ・授業参観、学部懇談会等
- ・合同運動会（3年前とは雰囲気が違った。附属中の生徒が積極的に話しかけてくれた。本校の生徒にたくさん声援を送ってくれた。中学校の意識が変わってきて

いると感じた。)

- ・事業所見学
- ・避難訓練・防災教室（落ち着いて避難できていた。自分から質問する生徒もいた。今後も10月に津波や水害を想定した垂直非難を実施する。）
- ・小学部校外学習（小1組、2組学校の周りを事前学習してから言っていた。唐揚げをペロリと食べていた）
- ・高等部の就業体験（マックスバリュー、福祉事業所、しっかり振り返って事後学習を行っていた）
- ・就業体験（村田製作所の子会社など、体験を積んできた）
- ・高1事業所見学（作業服を着ている人たちが障害者雇用。大学の法定雇用率を満たすために、限られた任期で雇用されている。ワークハウスつるぎ）
- ・小1組校外学習（富山駅前の子ども図書館、五福の児童館）
- ・中学部の修学旅行（京都の鉄道博物館、USJ、大阪城、串カツを食べてきた）
- ・プール学習（猛暑でプールに入る時間を早めた。朝の15分程度だけなど。日陰になるところが無く、暑い）
- ・小3組校外学習（池田屋安兵衛商店に行って学習してきた）
- ・高等部校外学習（受給者証のことなど学習してきた）
- ・中学部宿泊学習（今年は呉羽少年自然の家）
- ・夏休み前集会（執行部に入ると活躍してもらおう。仲良く、和気あいあいと集会に参加している）

<本校の課題>

課題①

- ・小1の2名が不登校傾向。聴覚過敏のために学校に入れない。
- ・教員数が少ないので対応に大変苦労している。

課題②

- ・高等部1名が糖尿病で治療中。学校でのインスリン注射が必要になる可能性がある。医療的なケアのために、医療行為の体制をどうしていくか。入学後に必要になった場合には、こちらで何とか対応する必要がある。

課題③

- ・業務削減をし、事務補佐員にも入ってもらっているが、なかなか解消されない。

課題④

- ・腐食が進んでいて、危ない箇所もある。安全に過ごせる場所でなくなっている。

＜今後取り組んでいきたいこと＞

① ウェルビーイング

子供たちが安心して取り組めるように。授業づくり

② 医療的なケアにどう対応するか

③ 教員の働き方改革。AIを活用して効率化。教育実習のため18:05までの勤務になっていたが、多忙感を少しでも減らすように来年度以降は廃止することが決まっている。

④ 校舎をできる範囲で修繕する。

＜創立50周年に向けて＞

- ・五艘地区のみなさんと振り返る企画にしたい。
- ・卒業生やデイサービスの方など本校のサポーターをたくさん集めたい。

4 今年度の学校運営計画について

(1) 学校運営計画（重点課題）→詳細は資料（令和7年度学校運営計画）

- ・重点課題A、Bについて説明
- ・各学部や分掌の課題が書いてあります。

(2) 重点課題の取組みについて→詳細は資料

- ・学校運営に関する評価計画と実際

① 教職員のアンケート（詳細は資料）

- ・学校教育目標に関して4月に共有したが、このつながりをうまく授業に反映したり保護者と共有したりできていないのではと考えている。年度末に振り返り、来年度につなげるようにしたい。
- ・各学部や分掌で業務削減を検討してる。少しずつ実現している。
- ・交流学习は小学部のみ。具体的にどのようなことを行っているかが見えにくい。
- ・キャリアパスポートの活用事例を共有していきたい。
- ・施設については今後どのようなことを取り組むか、先生方の変化をみていきたい。

② 保護者アンケート（詳細は資料）

- ・研究テーマのウェルビーイングに直結している問題。夢や希望をもつ指導が目に見える形になって保護者に届いていない。どのようにお届けしたらよいか検討している。クラスルームなど通じて。
- ・ICTについて、学習グループについて活用の頻度に差がある。子供の学びのために有効活用を紹介したい。
- ・支援目標をどこまで達成できているか、懇談会等で共有したい。

- ・チャレンジ活動が低く出ている、共通理解が必要。その上で保護者に伝えられるようにしていきたい。

5 その他 特になし

6 評議員の皆様より

(宮本様)

- ・保護者の皆様がどう思っているか。どれだけやっているつもりであっても、子供の結果が出ていないと親御さんの満足は難しいと思う。学校に期待する数字が難しいと感じる。インシュリンは、大人は自分で打っている。小学生用もあるが。

(副校長、校長)

- ・本校に在籍する子供だと管理が難しいので、大人の補助が必要になる。本人が自分で打つことはちょっと難しい。保護者はかなり協力的なので、必要であればお昼に学校に来て打つと言ってくださっている。

(宮本様)

- ・お医者さんに教えていただいて、このような形ならいいですよというアドバイスや指示をいただいて補助はできないか。

(副校長、校長)

- ・本人がうまく管理できないので、現時点では注射するシステムをするのが難しいという主治医の判断。現在は、小康状態であるので、大丈夫だが。

(宮本様)

- ・いつ起きるか分からないので、確認しておく必要があるのではないか。

(萩本様)

- ・中3の進路。家庭でも話をしている。今年度中1の入学者が少なかった。メリットの説明について、昨年度の4校園の会議でも受検者が少ないという同じ話題が出ていた。学校として、4校園に入学するメリットをどのように捉えているか。

(副校長)

- ・学校の小ささがメリット。情報交換ができています。卒業後もつながっている。少人数で学習できるのがすごくよかったと聞いている。

(校長)

- ・みんなの前で活躍する場が多い。スポットライトを浴びて、いろんな人に見てもらえる機会が多い。お世話してもらうのではなく、みんなの前で活躍できる場がありますよということは伝えられると思う。

(萩本様)

- ・小学部体験のときに、うちの子もこのようになれるかなと思って入学を考えたことを思い出した。ぜひぜひ大々的に伝えていってもらいたい。平日で行けなかった保護者にも

発信してもらいたい。

- ・体験先の選定はどのようにしているか。校外就業体験の体験先がそのまま就労先につながっているのか。

(副校長)

- ・就労先をどのように選定しているかは、保護者と担任と進路指導主事と相談したり、いろいろと見学をして体験したいところを保護者と希望を聞いて選定している。あなたはここに行きなさいというのではない。見学の促しをしている。職場までの距離なども家庭によって違うので、それらも考慮して検討し学校と家庭とで相談している。

(萩本様)

- ・インシュリン注射、4月あたりに医療ケア時の調査があった。次年度以降に派遣をしてもらえるように派遣をしてもらうことができるかどうか。

(副校長)

- ・本校は大学なので、富山市や富山県の支援からこぼれ落ちている。お金の出どころがない。

(副校長)

- ・県の資料は参考にさせてもらっている。

(藤永様)

- ・余剰金を使ってしまおうという話を学校と昨年やりとりしている。いろんな案が出るが、タープ1個でも2個でも、まだできることはあるのではと思って聞いていた。
- ・高木会長さんが後援会費に回したりした。明日わかば会の役員会があるので、ラインでやりとりしていた。明日ちょっと聞いてみたい。できることがあるんじゃないか。テント一つとかいろんなことはまだまだできる余地がある。
- ・50周年記念でお金を集められないかと思う。こういう子たちだからこそのいい環境が大事だと思う。PTAとして協力したい。
- ・プールの水が熱くなりすぎるなら、冷たい水を入れたり、プールの周りを冷やしたりしたらどうか。
- ・PTAの余剰金の多さにビックリしている。いつか使うだろうと貯めていた金額にビックリ。まだ余っていると聞いているので、0にはできないが元々使うお金なので使うべきだと思った。
- ・自分の子供が小学校のときから、自分たちより先生たちがたくさん動いている。いつ休んでいるのか？保護者ももっと何かできないか、常々思っていた。明日土曜日にPTAあると休日出勤なのに大丈夫かと思っていた。役員の都合がいいからと土日になると、先生も出てくることになる。民間だと休日出勤をしようとするのを止められる。
- ・就職についても先生たちからも話があるが、保護者からも提案している。今日午前中ハローワークに行って登録してきた。親の責任としてやらないといけないなと思っているが、高3になると保護者のやることがボーンと増える。でも、先生たちがどうした

らいいか動いてくれる。現役の保護者として来年の50周年として何かできないかと思っている。

- ・予算的なことは明日会議のときに話はしてみようと思う。厳密にいくらまで使えるかなど。規約を変える必要も出てくる。明日、浅野会長に話をしてみる。

7 その他

- ・今後の学校の予定を確認
- ・卒業式の日程、今年度の研究会の日程の変更について
- ・令和8年度から校長先生が専任化になる。校長が1名、大学の教員でない教員が常駐することになる。校内の体制を見直していく。ご承知おきください。特別支援畑の方が来られることになる予定。県立の学校から。
- ・大学とのつながりはこれまでどおりあるので、大丈夫。今後、わかば会などにお伝えしていく。

会議を一つにしたらよいという案もあるが、現在のところはまだ一つになっている。

令和 7 年度 第 2 回 学校評議員会 記録

日時：令和 8 年 2 月 27 日（金）

13：00～14：00

場所：附属特別支援学校 ゆうゆう館

《 参加者 》

学校評議員 (3名)	宮 岸 富美雄 様	五艘地区代表 艘友会会長
	藤 永 弘 和 様	P T Aわかば会副会長
	萩 本 信 吾 様	P T Aわかば会顧問
学 校 (4名)	小 林 真	学校長
	瀧 脇 隆 志	副校長
	脊 戸 みちる	校内教頭
	越 村 早貴子	教務主任（記録）

《 次 第 》

1 学校長あいさつ

→卒業後の余暇時間を自立して過ごすために。

2 本年度の取組について

(1) 令和 7 年度学校行事等・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

(2) 教育理念、教育目標等・・・・・・・・・・・・・・・・ P10

(3) R 7 教育理念、教育目標、学部目標と

アドミッションポリシー・ディプロマポリシーとの位置関係・ P12

(4) 令和 7 年度学校運営計画・・・・・・・・・・・・・・・・ P13

・重点課題の取組

(5) 令和 7 年度 学校運営に関する評価計画と実際・・・・・・・・ P18

(6) 学校評価アンケート集計結果（保護者）・・・・・・・・ P19

・学校評価保護者アンケート 分析結果・・・・・・・・ P23

(7) 学校評価アンケート集計結果（教職員）・・・・・・・・ P25

・学校評価教職員アンケート 分析結果・・・・・・・・ P37

(8) 高等部生徒の進路予定先・・・・・・・・・・・・・・・・ P40

3 評議員の皆様より

(宮岸様) 入学検査の結果、希望者はどれくらいか。補充の希望がないことに驚いた。

→年によって受検者には波がある。附属幼稚園は定員の半分くらい、中学校は定員を減らした。国の基準が変わったためである。附属幼稚園も送迎がないので私立に流れている。県立の小学部に入学される方が増えてきている。全体では受検者が減っている。

(藤永様) 保護者として聞きたいのは、高3は考えることが多い。不満になるが、学校行事についての参加案内はもっと余裕をもってもらえたらと思って聞いていた。学校行事、PTA、就職と月に何回も仕事を休むことがあった。自分の子供のことなので行くしかなかった。わかば会のことも、高3は会長又は副会長をやると自分の子供のことで精いっぱい高等部から入った人だけ何もしないのはいったいどうか。

(宮岸様) 連絡網は、LINE などを使えばあっという間にできる。

→大学が決めたシステムの中で動かなければならない。

(萩本様) 保護者は、附属特別支援学校のことをよく勉強していて、保護者同士で教え合っているようだ。学校の特徴を保護者にどのように伝わっているのか。就業体験、事業所見学がつながるとよい。将来のために余暇支援に取り組んでいることをホームページでアピールできるとよい。ウェルビーイングの取組が何につながっているのか、一つ一つ意味づけをするとよい。教員のアンケートに辛辣な内容があった。子どもたちにとってよい学習環境になっているのか心配である。

4 その他

(1) 今後の学校の予定について

3月13日(金) 卒業式 3月19日(木) 修了式

(2) 次年度の研究会について

12月11日(金) 予定